

「2017 年度 東北地域企業 アウトバウンド旅客調査」 報告書

～ビジネス・アウトバウンドによる国際化戦略～

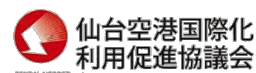
平成 29 年 12 月

株式会社日本政策投資銀行

仙台国際空港株式会社

一般社団法人東北経済連合会

仙台空港国際化利用促進協議会



はじめに

仙台空港が、国管理空港としてわが国初の完全民営化空港としてスタートしてから、本年7月で丸1年が経過しました。この間、仙台空港では、国際線定期路線の充実、ターミナルビルの改修、駐車場の拡充など、東北の「プライマリー・グローバル・ゲートウェイ」として、東北を訪れる人・東北から出発する人の双方から選ばれる空港の実現に向けた取り組みを進めています。

一方、国際線定期路線の充実のためには、インバウンド需要だけでなく、アウトバウンド需要も喚起していく必要があります。中でも、企業のアウトバウンド需要（海外出張需要）は、観光需要のように閑散期等の需要変動の波の影響を受けにくい安定的かつ底堅い需要であり、既存国際線定期路線の維持・拡充や新規国際線定期路線の誘致を支える極めて重要な需要の一つであると言えます。

「2017年度 東北地域企業アウトバウンド旅客調査」（以下、「本調査」）においては、東北地域初の試みとして、東北6県に所在する企業の海外出張需要の実態を明らかにするとともに、企業から見た仙台空港の課題や仙台空港への期待を明らかにすることにより、今後の仙台空港の運営に活かしていくことを目的としています。

具体的には、東北経済連合会、仙台商工会議所の会員企業のご協力により、①海外出張の実態（企業の海外出張者数、訪問先、出発空港）、②仙台空港への期待、③韓国仁川空港経由での海外出張の可能性、の3点について、アンケートを実施しました。

本調査にご協力いただいた東北経済連合会、及び、仙台商工会議所の会員企業の皆様には、この場を借りて、お礼を申し上げます。

最後に、本調査が、仙台空港の今後の需要拡大に向けた取り組みの一助となりましたら幸いです。

2017年12月

株式会社日本政策投資銀行
仙台国際空港株式会社
一般社団法人東北経済連合会
仙台空港国際化利用促進協議会

目次

はじめに	i
I. 本報告書の要旨	1
II. 調査要領	8
III. 調査結果	9
(1) 海外出張の実態	9
1) 海外出張者数（業種別・県別）	9
参考）仙台空港の概要	11
2) 訪問先	13
参考）日本人流動パターン	14
(2) 仙台空港への期待	17
1) 仙台空港利用企業の現状	17
2) 仙台空港からの就航（または増便）希望路線	18
3) 仙台空港に望む改善点	21
4) 自由記入欄から見える仙台空港の可能性	22
(3) 韓国仁川空港経由での海外出張の可能性	23
1) 海外出張の際の仁川空港経由での第三国訪問の実績有無及び利用意向	23
2) 仁川空港経由での第三国訪問実績のある企業による利用意向の詳細	23
3) 仁川空港経由で第三国を訪問したことのない企業の同ルートを利用しない理由	24
4) 仁川空港経由で第三国を訪問することを検討したことがない企業の内訳	24
5) 仁川空港経由で第三国を訪問するルートを利用しない「その他」の理由	25
6) 具体的なコメントから見える仁川空港経由での第三国訪問の可能性	26
IV. 仙台空港が東北地域企業から選ばれるための課題	27
(1) 仙台空港へのアクセス向上	27
(2) 運用時間の延長を軸とした利便性向上	28
(3) 仙台空港利用企業への優遇策	28
(4) トランジットによる成田空港利用の促進	29
(5) 仁川空港を経由したトランジットの周知	29
V. 調査票	30

＜ご利用に当たっての注意事項＞

1. 「アウトバウンド」とは、日本国内から日本国外への出国を指す。
2. 「出発空港」とは、日本国内で国際線に搭乗した空港を指す。
 - (例 1) 国内移動において航空便を利用した場合
仙台空港から国内線で成田空港に移動し、成田空港で国際線に乗り換えた場合、出発空港は「成田空港」
 - (例 2) 国際線にて出国後、最終目的地以外で乗り換えをした場合
仙台空港から国際線に搭乗し、仁川空港経由でハノイ空港に到着した場合、出発空港は「仙台空港」

I. 本報告書の要旨

「2017 年度 東北地域企業アウトバウンド旅客調査」結果の概要

(1) 海外出張の実態

1) 海外出張者数

- ❖ 「2017 年度 東北地域企業アウトバウンド旅客調査」(以下、「本調査」)による東北地域企業の対象期間中1年間の延べ海外出張者(以下、「海外出張者」)の数は、3,106人(回答企業338社のうち、「海外出張有」と回答した149社の集計)となった。
- ❖ 内訳は、製造業1,808人(76社)、非製造業1,298人(262社)。製造業では電気機械(653人)、その他製造業(445人)、金属製品(268人)の順に、非製造業ではサービス(314人)、金融・保険(302人)、その他非製造業(214人)の順に多い結果となり、海外拠点数が多い業種が上位となる傾向がみられた。
- ❖ 企業所在地別では、宮城県所在企業(2,449人)が全体の8割近くを占め、宮城県所在企業に海外出張者数が集中した。

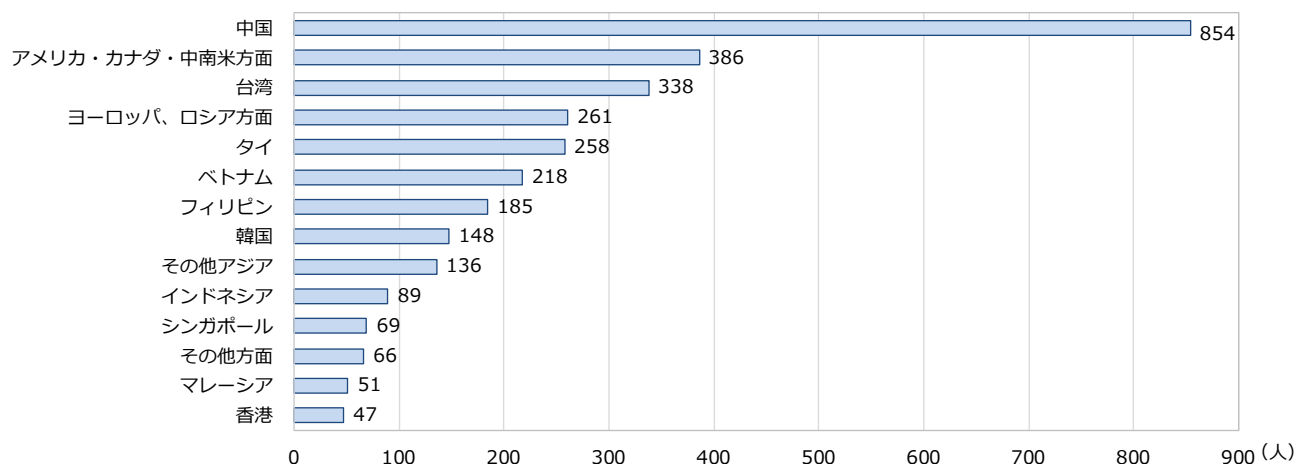
<図表(1) - 1) 海外出張者数及び海外出張者有無別企業数>



2) 訪問先

- ❖ 海外出張者の訪問先は、アジア方面2,393人(77.0%)、北米・中南米方面386人(12.4%)、欧・露方面261人(8.4%)。その他方面66人(2.1%)となった。
- ❖ 国別に見ると、中国(854人)が最も多く、次いで、アメリカ・カナダ・中南米方面(386人)、台湾(338人)、ヨーロッパ、ロシア方面(261人)、タイ(258人)、ベトナム(218人)の順に多かった。
- ❖ 中国を筆頭に、仙台空港から定期直行便のある台湾・韓国に加え、定期直行便のない欧米方面や新興アジア諸国(タイ、ベトナム、フィリピン等)など幅広い国・地域に対し、海外出張者が訪問している実態が明らかになった。

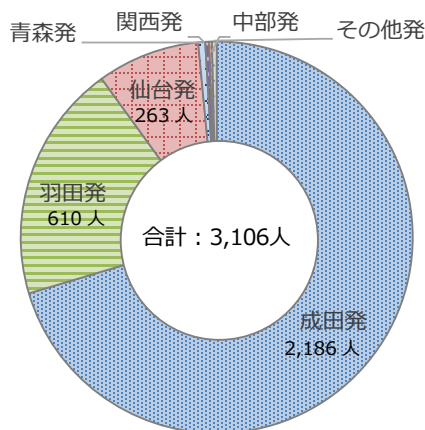
<図表(1) - 2) 国・地域別 海外出張者数(東北6県)>



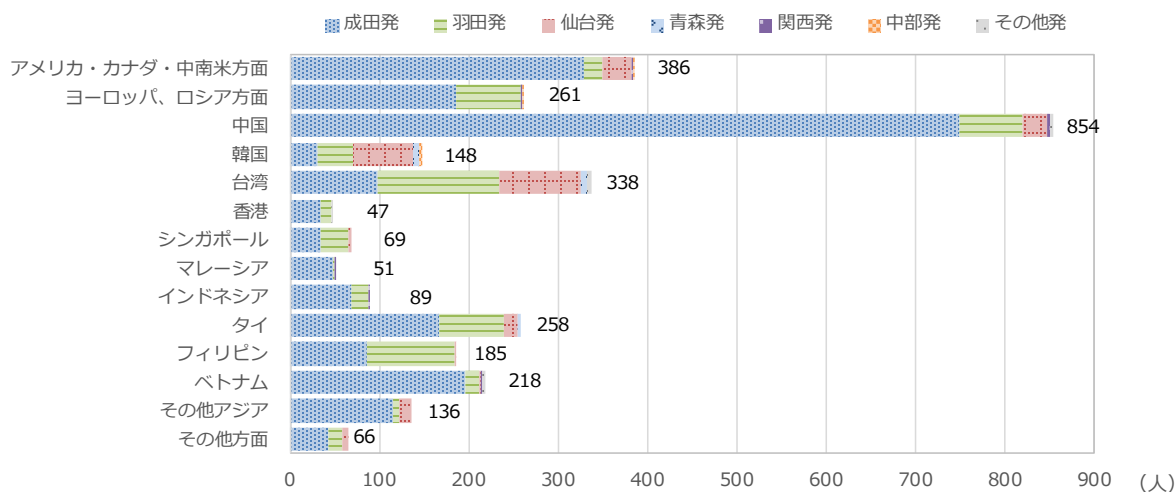
3) 出発空港

- ❖ 海外出張者の出発空港は、成田空港 2,186 人(70.4%)、羽田空港 610 人(19.6%)、仙台空港 263 人(8.5%)、青森空港 18 人(0.6%) 等となった。
- ❖ 訪問先別に出発空港を見ると、中国、アメリカ・カナダ・中南米方面、ヨーロッパ、ロシア方面等では、成田空港の利用が太宗を占めた。タイ、フィリピン等新興アジア諸国では、成田・羽田両空港の利用が太宗を占めた。仙台空港から定期直行便のある韓国・台湾では、韓国で仙台空港の利用が過半を占めたものの、台湾では3割台に留まり、成田、羽田両空港の利用率とほぼ拮抗した。
- ❖ 中国訪問にて成田空港の利用が太宗を占めたのは、成田空港が仙台空港に比し、就航先・就航便数が豊富な中国路線を有していること等が考えられる。

<図表(1) - 3) - 1 出発空港別 海外出張者数(人)(東北6県)>



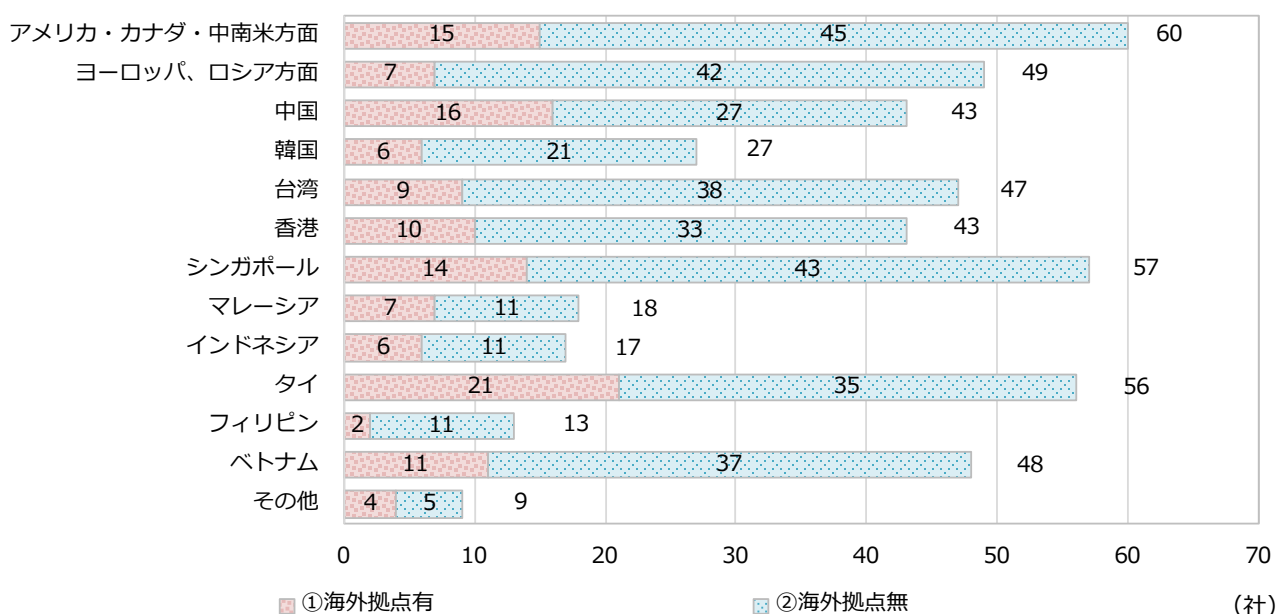
<図表(1) - 3) - 2 訪問先別 空港別海外出張者数(人)(東北6県)>



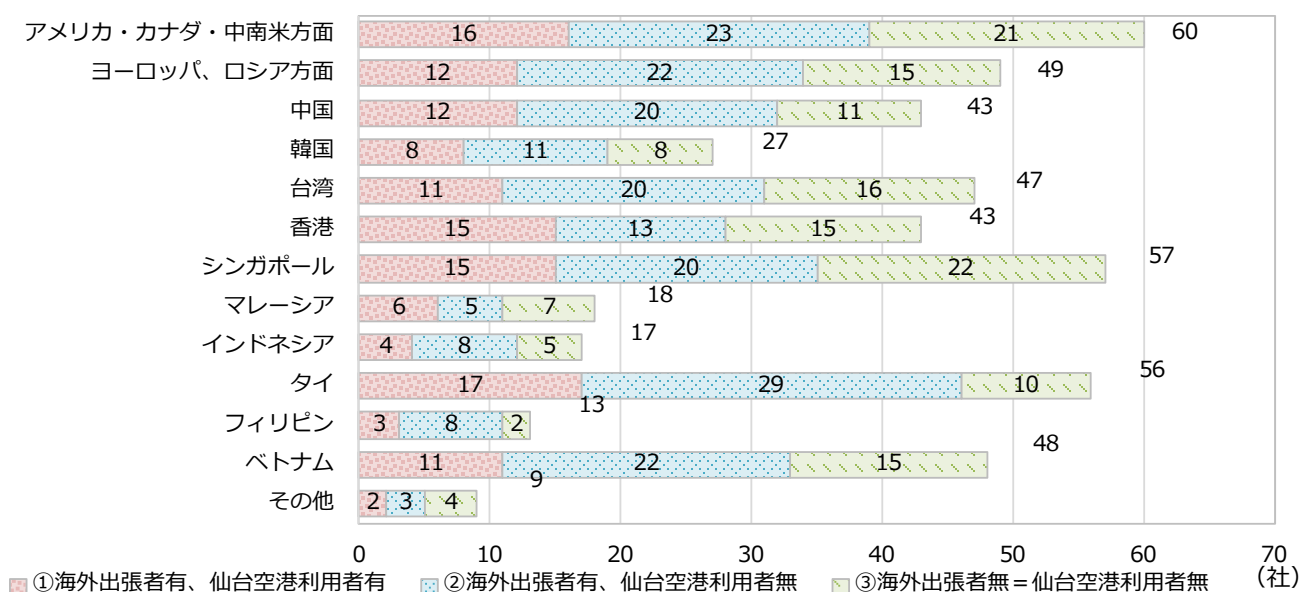
(2) 仙台空港への期待

- ❖ 仙台空港からの新規就航（または増便）を希望する企業は、回答企業全体の約半分の168社（内訳：海外拠点有：49社、無：119社、仙台空港利用者有：34社、無：134社）に上った。
- ❖ 新規就航（または増便）先としては、アメリカ・カナダ・中南米方面（60社）、シンガポール（57社）、タイ（56社）、ヨーロッパ・ロシア方面（49社）、ベトナム（48社）の順に多かった。
内訳を見ると、海外拠点のある企業からは、タイ（21社）、中国（16社）、アメリカ・カナダ・中南米方面（15社）等が、海外拠点のない企業からは、アメリカ・カナダ・中南米方面（45社）、シンガポール（43社）、ヨーロッパ・ロシア方面（42社）等が上位に上げられた。
- ❖ 仙台空港利用者有の企業からは、タイ（17社）、アメリカ・カナダ・中南米方面（16社）、香港、シンガポール（各々15社）等が上位に上げられた。

＜図表（2）－1 就航（または増便）希望路線及び希望企業の内訳（複数回答）：海外拠点の有無別＞

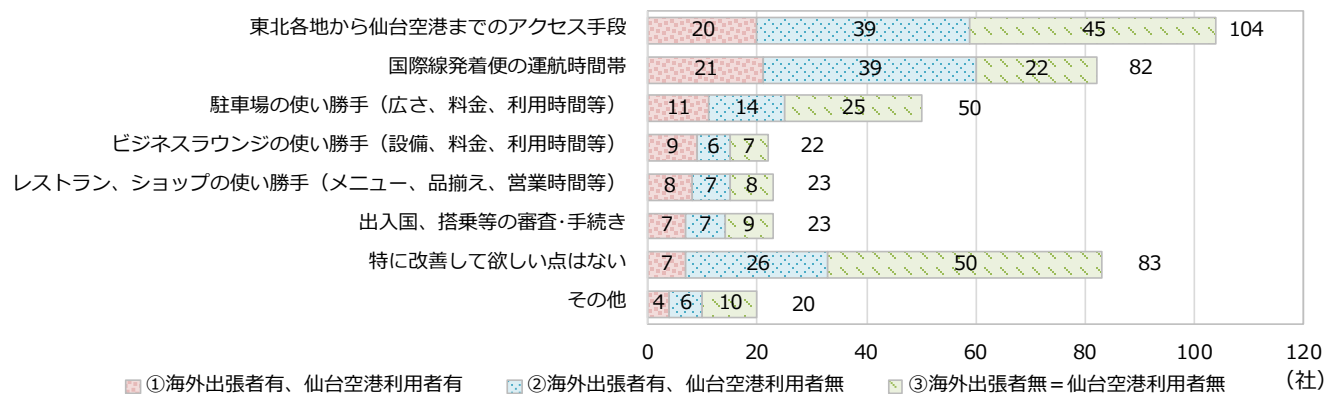


＜図表（2）－2 就航（または増便）希望路線及び希望企業の内訳（複数回答）：海外出張者／仙台空港利用者の有無別＞



- ❖ 仙台空港に望む改善点では、「東北各地から仙台空港までのアクセス手段」の改善を望む企業が最も多く(104社)、次いで、「特に改善して欲しい点はない」(83社)、「国際線発着便の運航時間帯」(82社)の順に多い。中でも、アクセス手段の改善に対しては、海外出張者の有無及び仙台空港を利用した海外出張者の有無に関わらず、多くの企業から改善を望む声が挙がっており、早急な対応が必要であると考えられる。
- ❖ 仙台空港に望む「その他」の改善点として、最もコメントが多かったのが仙台空港アクセス線に関するものであり、増便(快速を含む)やスーツケース等を一時的に格納する場所の確保等への要望が見られた。また、仙台空港を利用しない海外出張者を有する企業からのコメントとして、既存路線の増便が挙げられた。

＜図表（２）－３ 仙台空港に望む改善点及び改善を望む企業の内訳：海外出張者／仙台空港利用者の有無別＞



＜図表（２）－４ 仙台空港に望む「その他」の改善点及び「その他」の改善を望む企業の内訳＞

	アクセス鉄道	新規路線の開拓	既存路線の増便	その他	特になし	海外出張なし
①海外出張者有、仙台空港利用者有	3	0	0	1	0	0
②海外出張者有、仙台空港利用者無	0	1	3	0	1	0
③海外出張者無＝仙台空港利用者無	2	0	0	2	1	6
総数	5	1	3	3	2	6

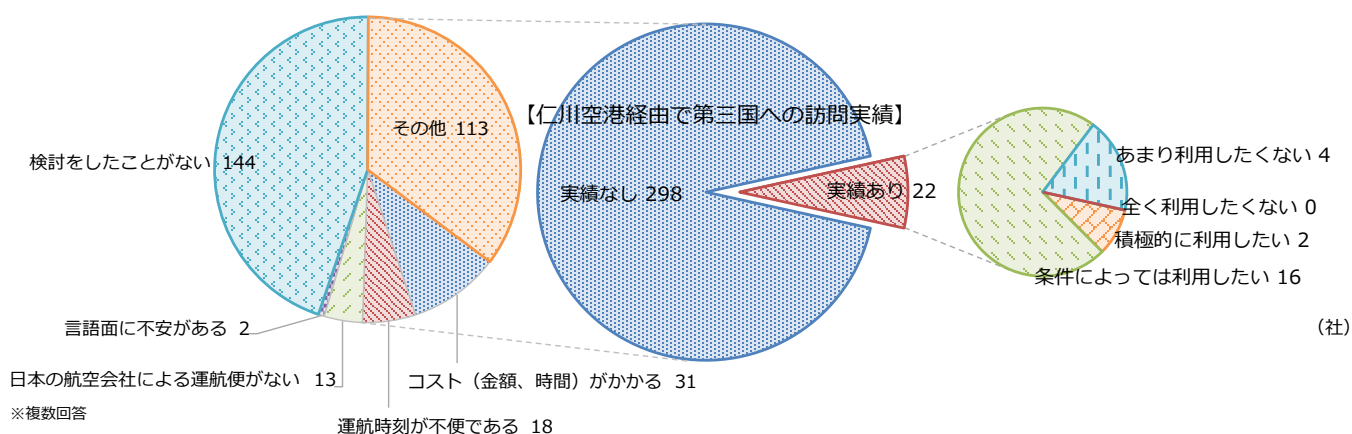
- ・ アクセス鉄道にスーツケースを置くスペースがほしい。
- ・ 仙台駅までのアクセス線の本数を増やしてほしい。サインボードの数を増やしてほしい。
- ・ アクセス鉄道の全体の増便、または快速の増便。
- ・ アクセス鉄道の運行本数。
- ・ 仙台空港アクセス鉄道の増便。

(注) 本項目は、企業からの自由回答を上記の6要素に分解し、集計した結果であるため、総計の合計は必ずしも回答企業数とは一致しない。

（３）韓国仁川空港経由での海外出張の可能性

- ❖ 過去に仙台空港から仁川空港を経由して第三国を訪問した海外出張者がいたと回答した企業は全体の１割弱（22 社）に留まったものの、実際に当該ルートを利用した海外出張経験者からは「乗り継ぎ」「就航頻度」「金額」といった条件によっては利用したい等の肯定的な意見が太宗を占めた。また、金額、機材や設備の充実等を評価する声があった。
- ❖ 一方、当該ルートを利用したことのない企業が同ルートを利用しない理由の５割弱（144 社）を「検討をしたことがない」が占めており、これら企業に対する当該ルートの周知と、具体的で比較検討可能なトランジット・プランを提示する意義が窺える。

＜図表（３）－１ 当該ルートの実績の有無及び今後の利用意向＞



＜図表（３）－２ 仁川空港経由での第三国訪問実績のある企業による利用意向の詳細＞

	乗り継ぎ	就航頻度	金額	空港	航空会社	地域活性化
積極的に利用したい	1	0	0	0	0	1
条件によっては利用したい	8	6	6	2	1	0
あまり利用したくない	4	0	0	0	1	0
全く利用したくない	0	0	0	0	0	0

(注) 本項目は、企業からの自由回答を上記の６要素に分解し、集計した結果であるため、総計の合計は必ずしも回答企業数とは一致しない。

＜図表（３）－３ 仁川空港経由で第三国を訪問することを検討したことがない企業の内訳＞

海外拠点	無	有
青森県	9	0
岩手県	9	3
宮城県	57	38
秋田県	5	1
山形県	5	2
福島県	15	0
総計	100	44

(社)

海外出張者	無	有（仙台空港利用無）	有（仙台空港利用有）
青森県	6	3	0
岩手県	6	4	2
宮城県	48	35	12
秋田県	3	3	0
山形県	2	4	1
福島県	9	5	1
総計	74	54	16

(社)

（４）仙台空港が東北地域企業から選ばれるための課題

仙台空港が、国管理空港としてわが国初の完全民営化空港としてスタートしてから、本年７月で丸１年が経過した。仙台空港は、「プライマリー・グローバル・ゲートウェイ」を将来イメージとして、「東北を発着する旅客に一番に選ばれる東北で最も重要な航空拠点となる」ことを目標に掲げ、様々な取り組みを進めている。

そのような状況の中、この度、東北地域初の試みとなる本調査により、①海外出張の実態（企業の海外出張者数、訪問先、出発空港）、②仙台空港への期待、③韓国仁川空港経由での海外出張の可能性、に関する企業からの声を把握することができた。その結果を見ると、企業の仙台空港に寄せる期待は大きいものの、仙台空港が東北地域企業から充分活用されているとは言い難い実態が明らかとなった。

以上のことから、まずは、東北地域企業の間には仙台空港の活用のメリットを充分周知するとともに、**「仙台空港を『東北地域の財産』と位置づけ、東北地域全体で利活用していく」**といった気運を醸成していくことが、何よりも重要であるとの考えに達した。その結果として、仙台空港を活用する企業が増え、仙台空港に対する東北地域企業の海外出張需要の拡大を通じ、更なる国際線定期路線の充実へとつながることが期待される。

以下に、そのために必要とされるであろう５つの処方箋を示す。

（１）仙台空港へのアクセス向上

- ※ 仙台空港アクセス線による仙台空港へのアクセス向上のため、発着頻度及び時刻の改善を図る。
- ※ 仙台空港～仙台市内（主要拠点）間のリムジンバスの開設により、二次交通の補完・強化に貢献する。
- ※ 仙台空港アクセス線利用時の快適性向上のため、手荷物一時格納場所確保等を含む車両改善に取り組む。

（２）運用時間の延長を軸とした利便性向上

- ※ 夜間飛行制限の緩和により仙台空港深夜発→現地早朝着便を就航し、海外出張者の利便性向上に寄与する。
- ※ 翌朝まで駐機する仙台空港深夜着便機を有効活用し、仙台空港早朝発便就航による効率的な増便を図る。
- ※ 航空会社にとっての仙台空港の利便を高めることにより、LCCの更なる誘致や、新規就航及び増便を目指す。

（３）仙台空港利用企業への優遇策

- ※ 「仙台空港サポータークラブ」の早期立ち上げにより、「仙台空港ファン」の育成土壌を作る。
- ※ 仙台空港に対する理解と共感を生み、仙台空港を利用する意義を広く共有するインセンティブを検討する。
- ※ 「仙台空港ファン」をはじめとした企業等からの声を聞く機会を獲得し、価値ある仙台空港の実現に活かす。

（４）トランジットによる成田空港利用の促進

- ※ 仙台空港を起点とし、成田空港を出発空港としたトランジット・プランの利便性を提示する。
- ※ 特に、成田空港を利用した海外出張経験者及び企業に対し、トランジット・プランの利用を促進する。
- ※ 周知のための方策として、成田空港とタイアップした広報や、旅行代理店へのインセンティブ等を検討する。

（５）仁川空港を経由したトランジットの周知

- ※ 特に新規就航の希望が多い路線に関し、仁川空港を経由した具体的なトランジット・プランを提示する。
- ※ 仁川空港を経由したトランジット・プランの利用によるコスト（金額・時間）・メリットを訴求する。
- ※ 周知のための方策として、旅行代理店への積極的な情報提供、航空会社と連携した広報等も視野に入れる。

以上

参考) 仙台国際空港株式会社による取り組み

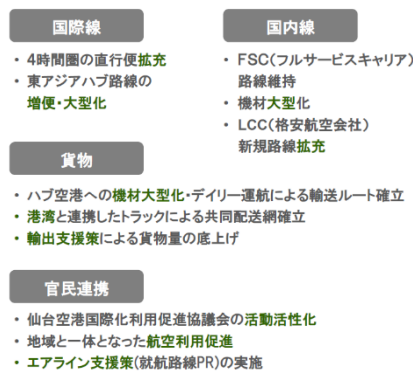
仙台空港は、民営化の目標を達成するため、「交流人口の増加」による「地域活性化」及び「風評被害払拭」、「機材の大型化」による「貨物量増加」、並びに、「空港経営の健全性」に向けた「持続的な空港活性化」及び「利用者本位の料金体系」を実現し、「旅客数を増やす」ことに取り組んでいる

その将来イメージは「**プライマリー・グローバル・ゲートウェイ**」。すなわち、「東北を発着する旅客に一番に選ばれる、東北で最も重要な航空貨物拠点となる」ことである。

仙台国際空港株式会社は、仙台空港の将来イメージの実現のため、以下のような施策に取り組んでいる。

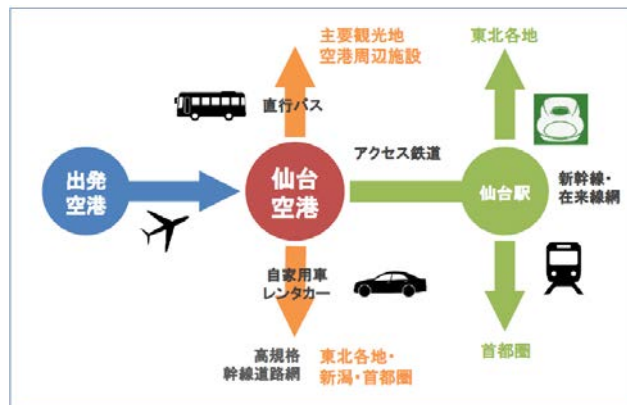
1. 路線を増やし、航空需要を増やす

航空ネットワークの拡充

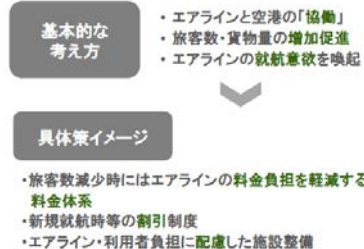


マルチモーダルハブ

航空ネットワークと複数の交通ネットワークが集結し、円滑に接続される結節点となる



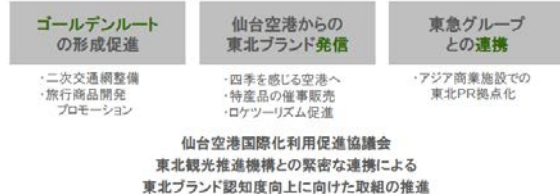
料金施策と施設整備



東北ブランドの発信

東北ブランドとは

美しい四季のコントラスト 伝統文化 食の豊かさ



2. 空港活性化と設備投資

「安心」「快適」「ホスピタリティ」の提供

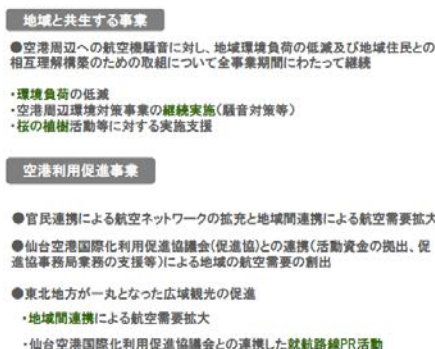
国内最高レベルの旅客満足度の実現

インフラとしての「安心」、楽しく過ごせる「快適」、うれしい驚きと感動を与える「ホスピタリティ」の、利用者の感じる3つの体験価値を高め、国内最高レベルの旅客満足度を実現。

旅客増加に先立つ十分なキャパシティの増強
インフラの基本性能ともいえるべき
旅客のキャパシティを計画的に拡充。



3. 高いサステナビリティの実現



(出典) 仙台国際空港株式会社
「仙台空港の30年後の将来イメージ
<マスタープラン>」(2016.7)

Ⅱ. 調査要領

（１）調査名

「2017 年度 東北地域企業アウトバウンド旅客調査」

（２）主な調査内容

- ①海外出張の実態（海外出張者数、訪問先、出発空港、企業所在地）
- ②仙台空港への期待（仙台空港からの就航便（増便）希望路線、仙台空港に望む改善点）
- ③韓国仁川空港経由での海外出張について（韓国仁川空港経由ルートの利用実績、利用意向、利用しない理由）

（３）調査対象

東北 6 県に本社・工場・支店・営業所を有する企業 816 社。
（主として東北経済連合会及び仙台商工会議所会員企業）

（４）調査期間

平成 29 年 4 月 19 日～平成 29 年 5 月 31 日までの回収分を集計。
なお、海外出張者数の調査対象期間は、平成 28 年度（平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月）。
ただし、一部の企業は平成 28 年（平成 28 年 1 月から平成 28 年 12 月）につき回答。

（５）調査方法及び回収状況

郵送配布・郵送回収。
発送数 816 社に対して回収数 338 社（回収率 41.4%）。

<県別 回収数・回収率>

	発送数	回収数	回収率
青森県	49	20	40.8%
岩手県	55	29	52.7%
宮城県	536	217	40.5%
秋田県	40	18	45.0%
山形県	61	24	39.3%
福島県	75	30	40.0%
合計	816	338	41.4%

Ⅲ. 調査結果

(1) 海外出張の実態

1) 海外出張者数（業種別・県別）

- ❖ 本調査による東北地域企業の対象期間中 1 年間の延べ海外出張者（以下、「海外出張者」）の数は、3,106 人（回答企業 338 社のうち、「海外出張有」と回答した 149 社の集計）となった。
- ❖ 内訳は、製造業 1,808 人（76 社）、非製造業 1,298 人（262 社）。製造業では電気機械（653 人）、その他製造業（445 人）、金属製品（268 人）の順に、非製造業ではサービス（314 人）、金融・保険（302 人）、その他非製造業（214 人）の順に多い結果となり、海外拠点数が多い業種が上位となる傾向がみられた。
- ❖ 企業所在地別では、宮城県所在企業（2,449 人）が全体の 8 割近くを占め、宮城県所在企業に海外出張者数が集中した。

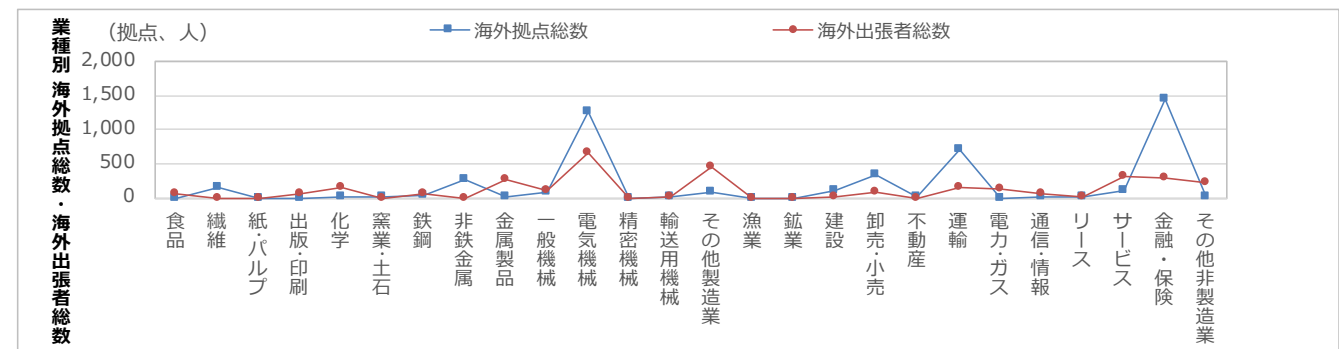
<図表（1）－1）－1 海外出張者数及び海外出張者有無別企業数【再掲】>



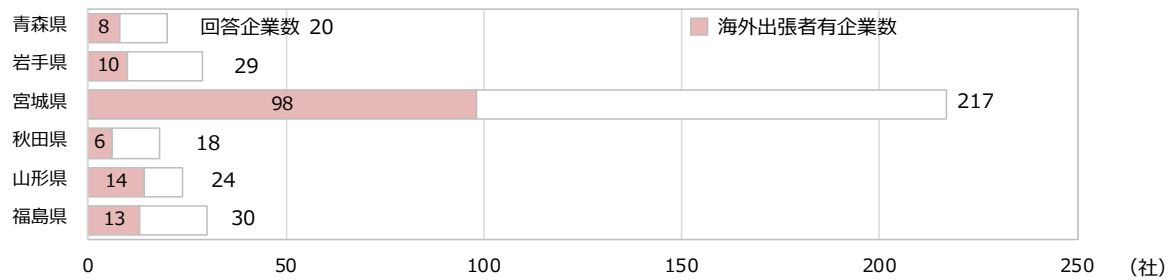
<図表（1）－1）－2 業種別 海外拠点所有企業数・海外拠点数・海外出張者数>

製造業	回答企業 総数	海外拠点 所有企業総数	海外拠点 総数	海外出張者 総数
食品	7	0	0	53
繊維	1	1	154	0
紙・パルプ	0	0	0	0
出版・印刷	8	0	0	63
化学	6	2	26	150
窯業・土石	2	1	21	0
鉄鋼	5	4	50	56
非鉄金属	3	1	275	4
金属製品	1	1	27	268
一般機械	6	4	93	108
電気機械	14	11	1,265	653
精密機械	1	0	0	0
輸送用機械	4	3	13	8
その他製造業	18	8	78	445
製造業計	76	36	2,002	1,808

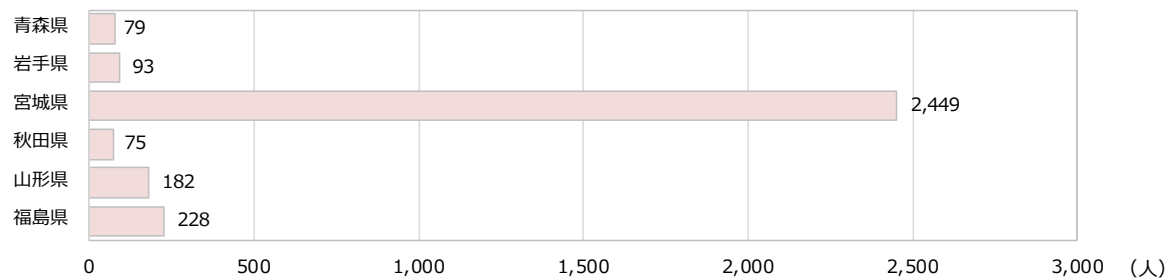
非製造業	回答企業 総数	海外拠点 所有企業総数	海外拠点 総数	海外出張者 総数
漁業	0	0	0	0
鉱業	0	0	0	0
建設	56	15	101	26
卸売・小売	32	7	345	85
不動産	9	2	9	2
運輸	24	5	705	146
電力・ガス	5	0	0	142
通信・情報	13	2	10	61
リース(含レンタル)	3	1	5	6
サービス	34	5	116	314
金融・保険	33	12	1,459	302
その他非製造業	53	3	7	214
非製造業計	262	52	2,757	1,298
総計	338	88	4,759	3,106



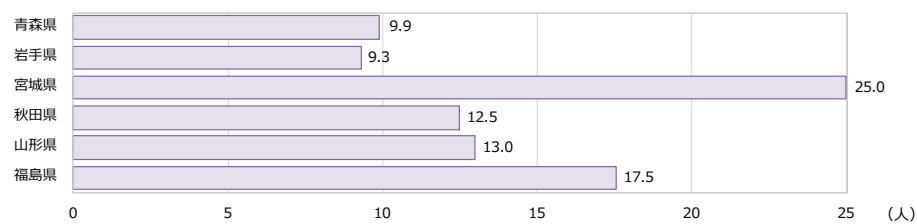
<図表（１）－１）－３ 県別 回答企業数及び海外出張者有企業数>



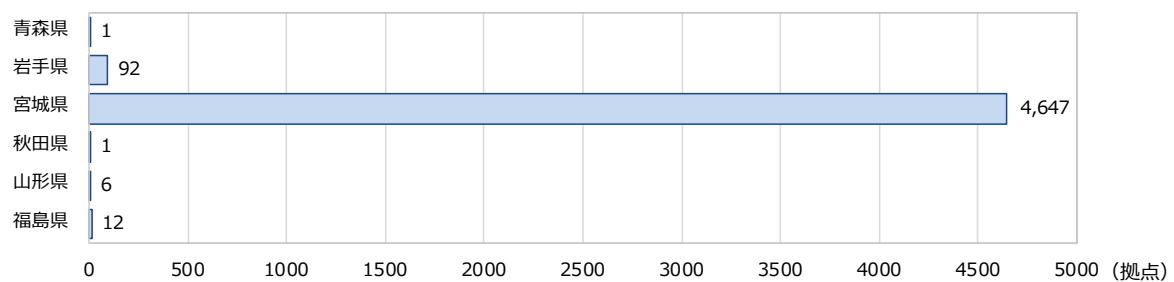
<図表（１）－１）－４ 県別 海外出張者数>



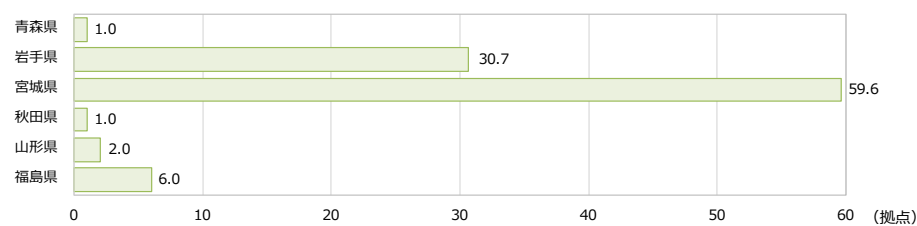
<参考図表 県別 海外出張者を有する企業 1 社当たりの海外出張者数>



<図表（１）－１）－５ 県別 海外拠点数>

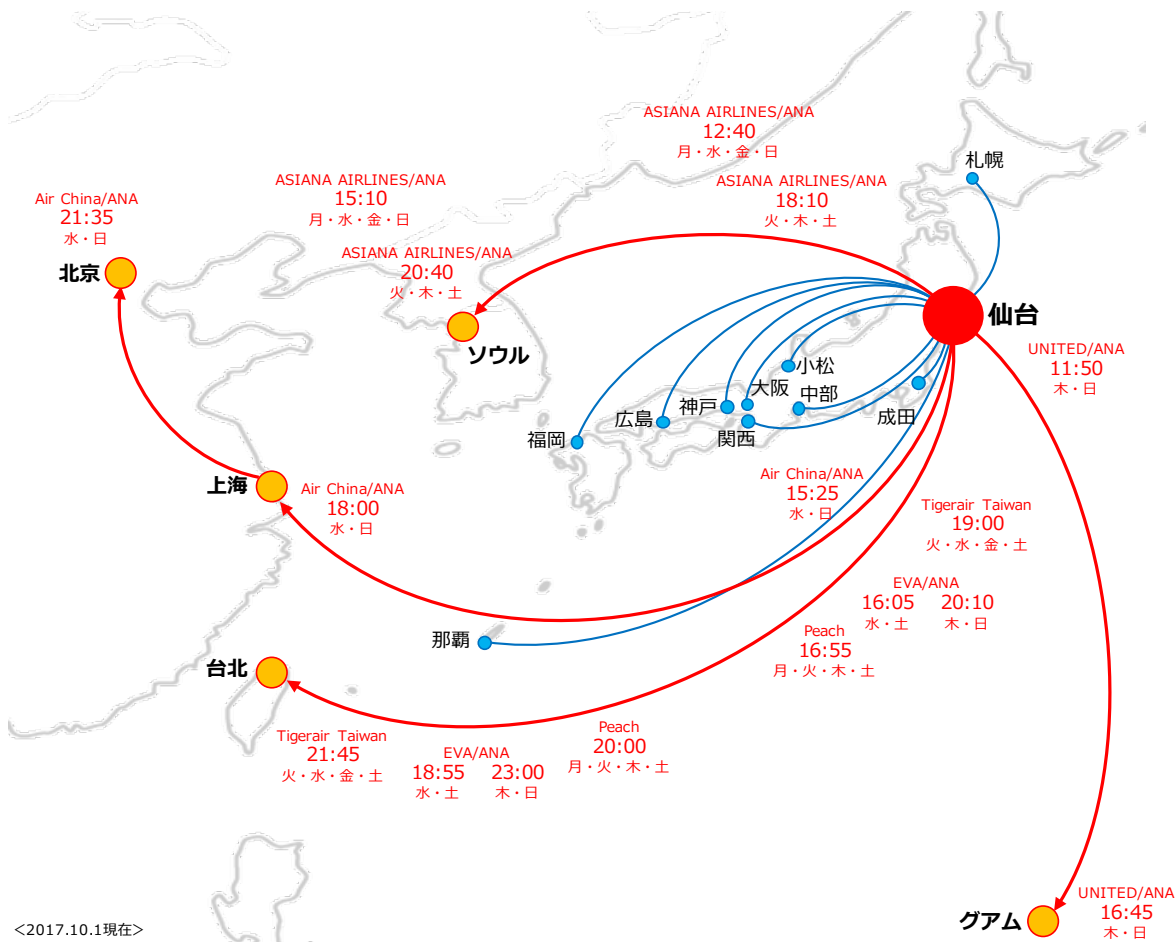


<参考図表 県別 海外拠点を有する企業 1 社当たりの海外拠点数>



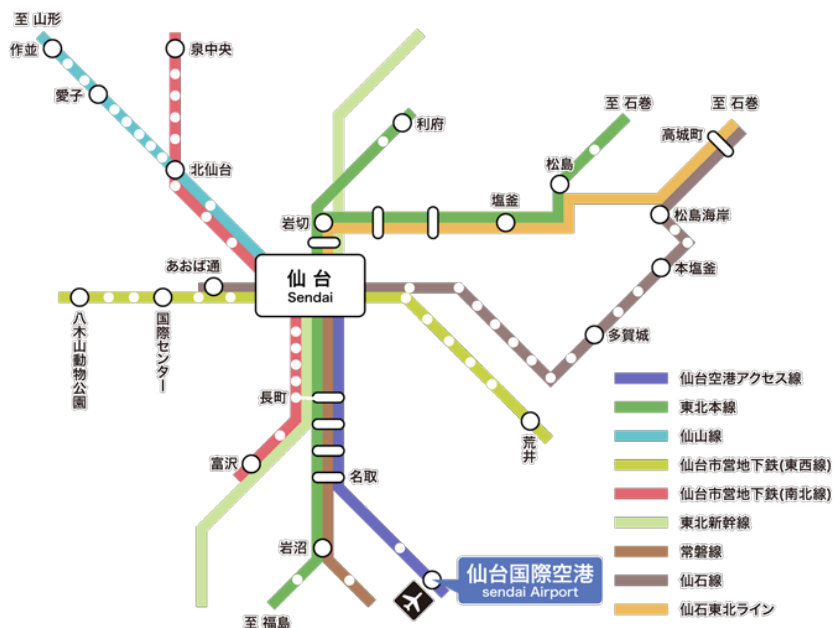
参考) 仙台空港の概要

① 就航路線



② 交通・アクセス

<電車>



(片道料金 (大人)) 仙台駅 - 仙台国際空港 : 650 円
(所要時間) 仙台駅 - 仙台国際空港 : 快速電車で約 17 分、普通電車で約 25 分
<2017.10.1 現在>

<バス>



(片道料金 (大人)) ※仙台空港発 - 各地着

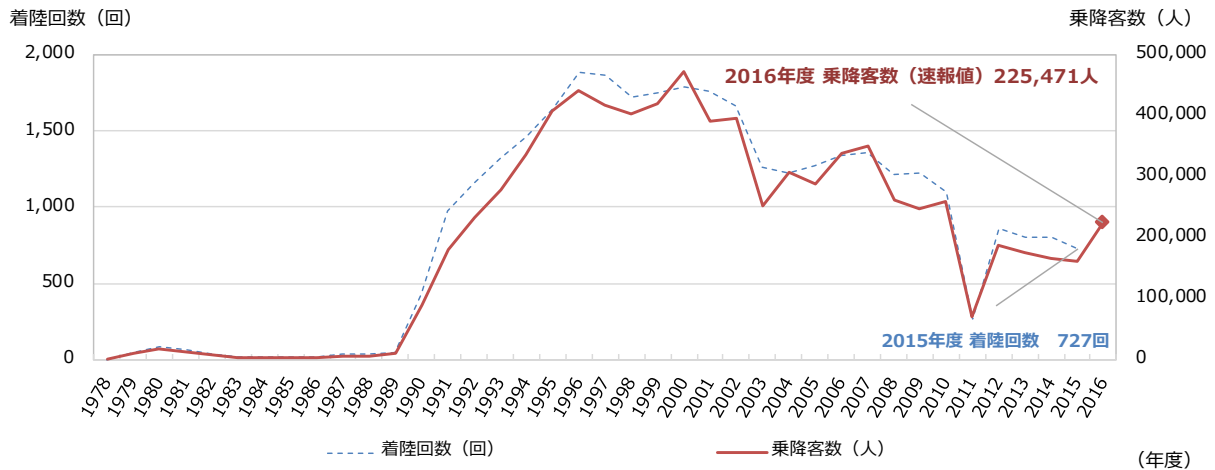
・松島 : 1,000 円	・平泉 : 2,500 円
・山形 : 1,500 円	・福島 : 1,500 円
・二本松 : 2,000 円	・会津若松 : 3,200 円

<2017.10.1 現在>

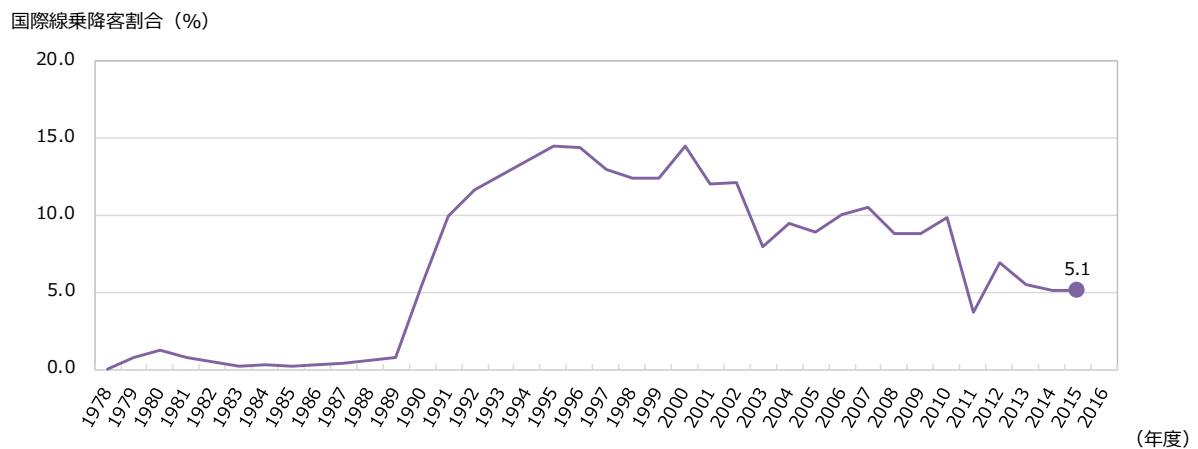
(出典) 仙台国際空港株式会社提供資料より株式会社日本政策投資銀行作成

- ❖ 仙台空港からの国内線は、札幌・成田・小松・中部・大阪・関西・神戸・広島・福岡・那覇への10路線。
- ❖ 海外へは、ソウル・北京・上海・台北・グアムへの5路線が就航中（チャーター便を除く）。
- ❖ 国際線の乗降客数は東日本大震災直後の2011年度をボトムに回復傾向にあり、2016年度の速報値では22万5千人を超えた。
- ❖ 国内線を含む総乗降客数に占める国際線の乗降客数は5.1%、総着陸数に占める国際線の着陸数は2.9%であり、仙台空港の乗降客数及び着陸数の大半を国内線が占める（2015年度）。

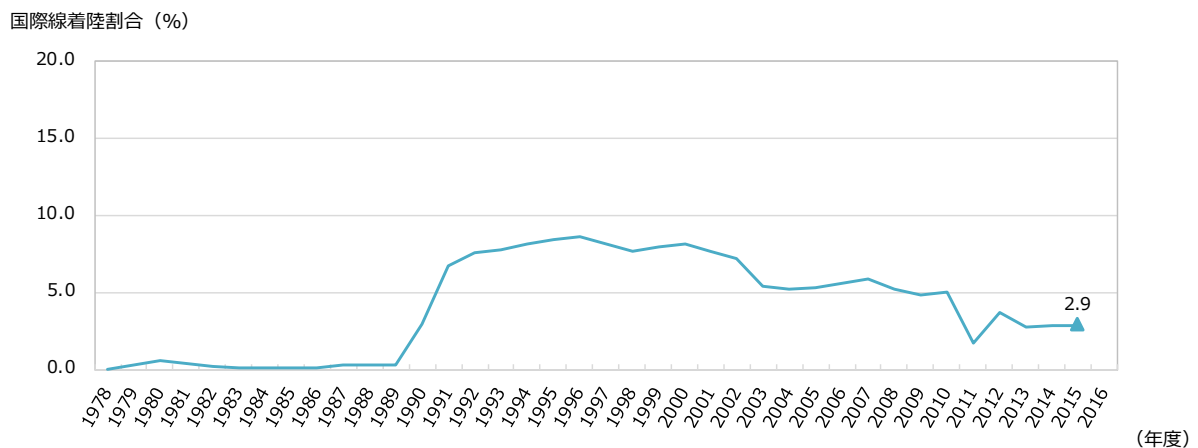
③ 国際線の乗降客数・着陸回数の推移



④ 総乗降客数に占める国際線乗降客数の割合の推移



⑤ 総着陸回数に占める国際線着陸回数の割合の推移



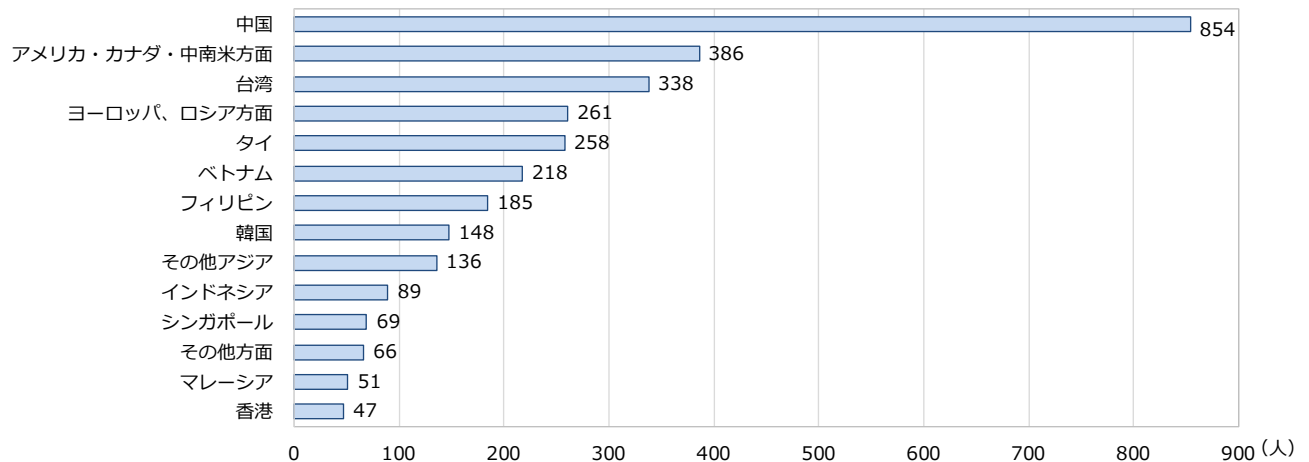
（出典）宮城県「仙台空港管理状況調書（年度）」

2) 訪問先

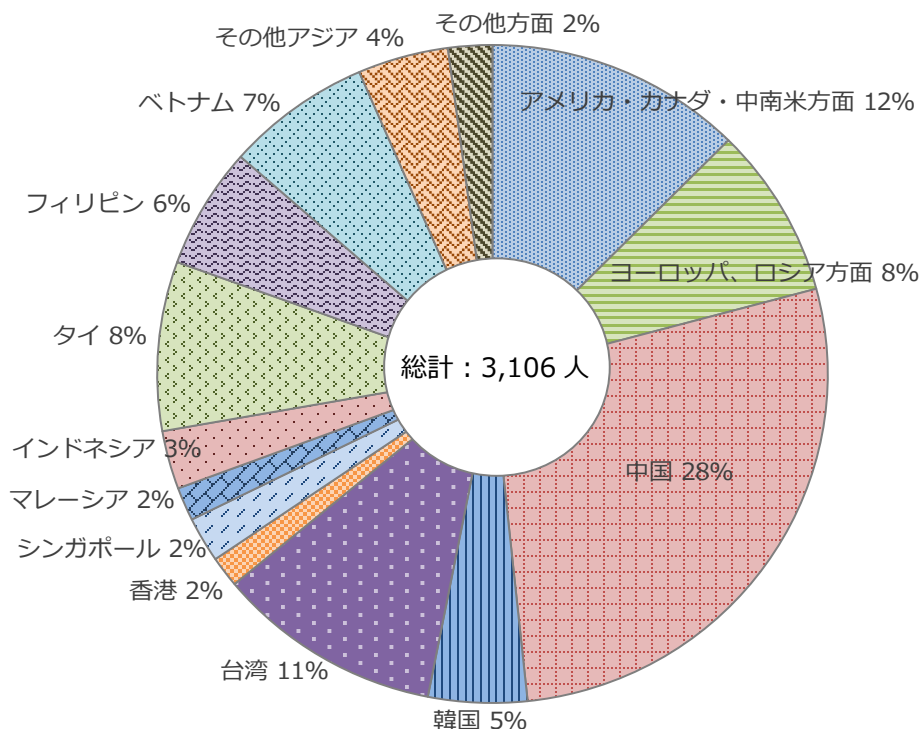
① 人数

- ❖ 訪問先は、アジア方面 2,393 人 (77.0%)、北米・中南米方面 386 人 (12.4%)、欧・露方面 261 人 (8.4%)、その他方面 66 人 (2.1%)。
- ❖ 国別に見ると、中国 (854 人) が最も多く、次いで、アメリカ・カナダ・中南米方面 (386 人)、台湾 (338 人)、ヨーロッパ、ロシア方面 (261 人)、タイ (258 人)、ベトナム (218 人) の順に多い。
- ❖ 中国を筆頭に、仙台空港から定期直行便のある台湾・韓国に加え、定期直行便のない欧米方面や新興アジア諸国 (タイ、ベトナム、フィリピン等) など幅広い国・地域に対し、海外出張者が訪問している実態が明らかになった。

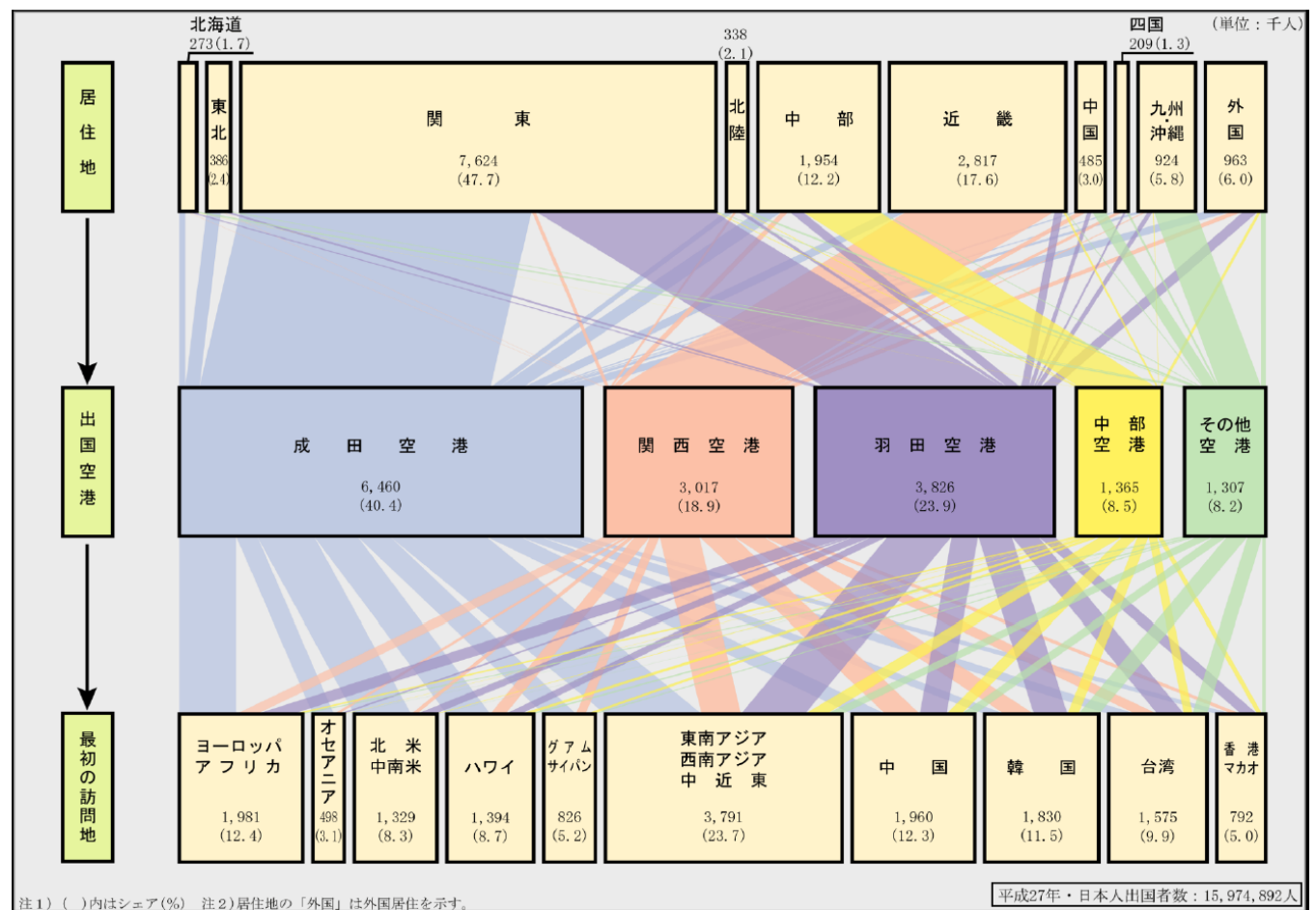
<図表 (1) - 2) - ① - 1 国・地域別 海外出張者数 (人) (東北 6 県)【再掲】>



<図表 (1) - 2) - ① - 2 国・地域別 海外出張者数 (構成比) (東北 6 県)>



参考) 日本人流動パターン



(注1) 平成 26 年度に実施した「国際航空旅客動態調査」を年間データとしてとりまとめたものであり、同調査では出国旅客及びトランジット旅客を対象として、個人属性・流動パターン等を項目としたアンケート調査を実施した。
(注2) 調査対象空港及び調査対象空港の概要は以下の通りである。

◆調査対象空港



◆調査対象空港の概要

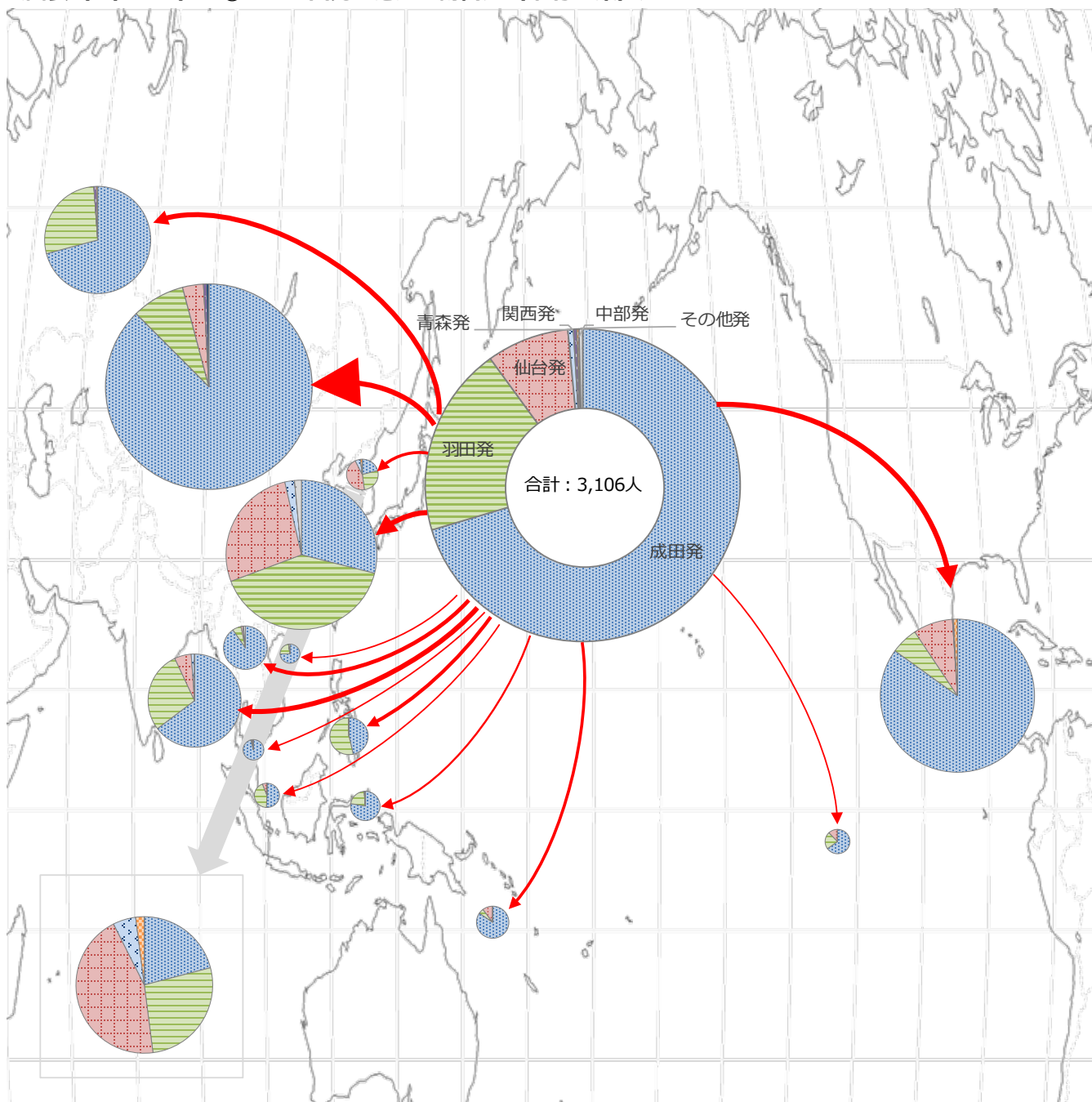
空港	種別(注1)	管理者	国際線就航都市数(注2)	出発便数(注2)(便/週)	本調査開始年
1. 成 田	会社管理	成田国際空港株式会社	97	1,513	昭和62年
2. 関 西	会社管理	関西国際空港株式会社	67	1,030	昭和62年(注3)
3. 中 部	会社管理	中部国際空港株式会社	33	325	昭和62年(注3)
4. 新千歳	国管理	国土交通大臣	13	107	昭和62年
5. 旭 川	特定地方管理	旭川市	4	13	平成18年(注4)
6. 函 館	国管理	国土交通大臣	3	13	平成7年(注4)
7. 青 森	地方管理	青森県	1	3	平成7年
8. 仙 台	国管理	国土交通大臣	5	14	平成3年
9. 秋 田	特定地方管理	秋田県	1	2	平成15年
10. 百 里	共用	防衛大臣	2	10	平成22年
11. 羽 田	国管理	国土交通大臣	31	642	昭和62年(注4)
12. 新 潟	国管理	国土交通大臣	5	12	昭和62年
13. 富 山	地方管理	富山県	4	10	平成5年
14. 小 松	共用	防衛大臣	3	14	昭和62年
15. 静 岡	地方管理	静岡県	15	43	平成21年
16. 美 保	共用	防衛大臣	1	3	平成13年
17. 岡 山	地方管理	岡山県	2	14	平成3年
18. 広 島	国管理	国土交通大臣	5	29	平成3年
19. 高 松	国管理	国土交通大臣	3	11	平成5年
20. 松 山	国管理	国土交通大臣	2	5	平成7年
21. 福 岡	国管理	国土交通大臣	18	283	昭和62年
22. 佐 賀	地方管理	佐賀県	2	6	平成24年
23. 長 崎	国管理	国土交通大臣	2	5	昭和62年
24. 熊 本	国管理	国土交通大臣	1	3	昭和62年(注4)
25. 大 分	国管理	国土交通大臣	1	4	平成5年(注4)
26. 宮 崎	国管理	国土交通大臣	3	8	平成13年
27. 鹿 児 島	国管理	国土交通大臣	4	12	昭和62年
28. 那 覇	国管理	国土交通大臣	12	149	昭和62年
29. 石 垣	地方管理	沖縄県	1	1	平成25年

(出典) 国土交通省航空局「国際航空旅客動態調査」(平成 27 年度)

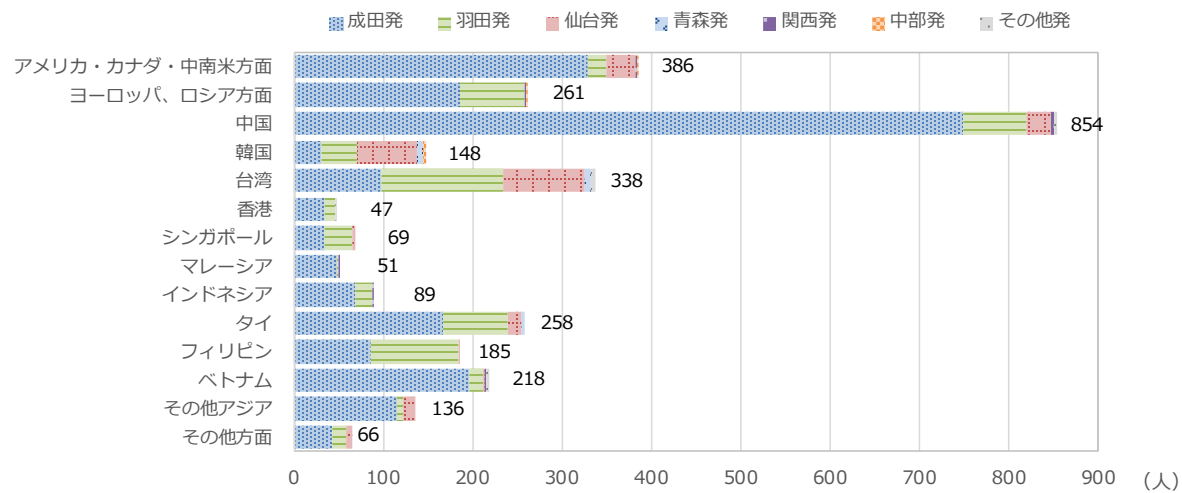
② 出発空港

- ❖ 出発空港は、成田空港 2,186 人 (70.4%)、羽田空港 610 人 (19.6%)、仙台空港 263 人 (8.5%)、青森空港 18 人 (0.6%) 等。
- ❖ 訪問先別に出発空港を見ると、中国、アメリカ・カナダ・中南米方面、ヨーロッパ、ロシア方面等では、成田空港の利用が太宗を占めた。タイ、フィリピン等新興アジア諸国では、成田・羽田両空港の利用が太宗を占めた。仙台空港から定期直行便のある韓国・台湾では、韓国で仙台空港の利用が過半を占めたものの、台湾では 3 割台に留まり、成田、羽田両空港の利用率とほぼ拮抗した。
- ❖ 中国訪問にて成田空港の利用が太宗を占めたのは、成田空港が仙台空港に比し、就航先・便数が豊富な中国路線を有していること等が考えられる。

<図表 (1) - 2) - ② - 1 出発空港別 訪問先 (東北 6 県)>

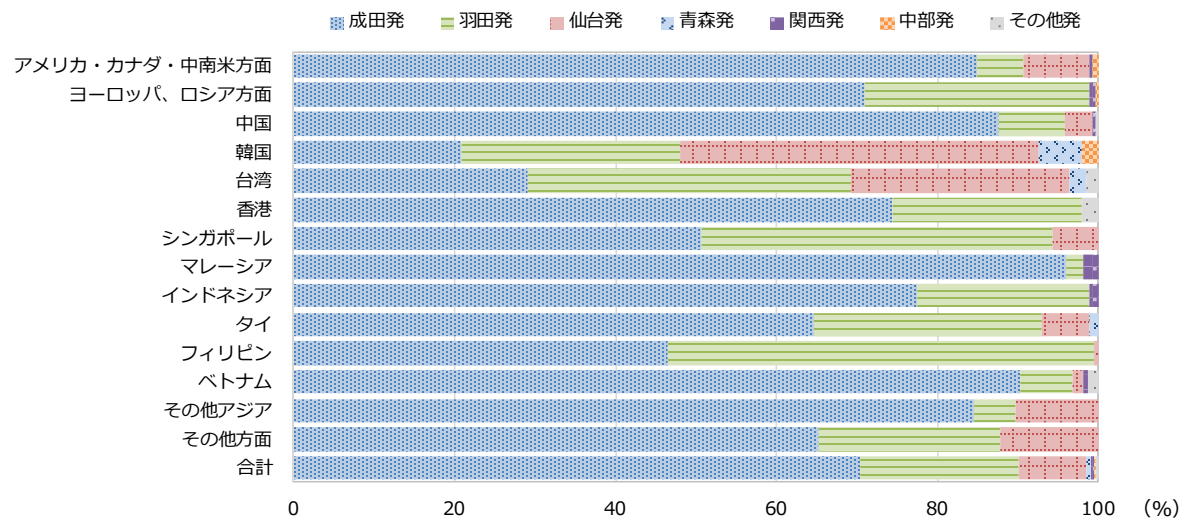


<図表（１）－２）－②－２ 訪問先別 空港別海外出張者数（人）（東北６県）【再掲】>



東北６県		(人)						
訪問先	出張者数	成田発	羽田発	仙台発	青森発	関西発	中部発	その他発
アメリカ・カナダ・中南米方面	386	328	22	32	0	1	3	0
ヨーロッパ、ロシア方面	261	185	73	0	2	1	0	0
中国	854	748	71	28	0	4	0	3
韓国	148	31	40	66	8	0	3	0
台湾	338	98	136	92	7	0	0	5
香港	47	35	11	0	0	0	0	1
シンガポール	69	35	30	4	0	0	0	0
マレーシア	51	49	1	0	0	1	0	0
インドネシア	89	69	19	0	0	1	0	0
タイ	258	167	73	15	3	0	0	0
フィリピン	185	86	98	1	0	0	0	0
ベトナム	218	197	14	3	0	1	0	3
その他アジア	136	115	7	14	0	0	0	0
その他方面	66	43	15	8	0	0	0	0
合計	3,106	2,186	610	263	18	10	7	12

<図表（１）－２）－②－３ 訪問先別 空港別海外出張者数（構成比：％）（東北６県）>



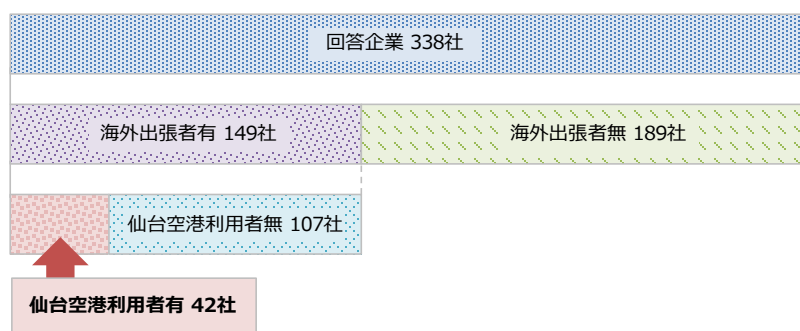
東北６県		(％)						
訪問先	出張者数	成田発	羽田発	仙台発	青森発	関西発	中部発	その他発
アメリカ・カナダ・中南米方面	386	85.0	5.7	8.3	0.0	0.3	0.8	0.0
ヨーロッパ、ロシア方面	261	70.9	28.0	0.0	0.0	0.8	0.4	0.0
中国	854	87.6	8.3	3.3	0.0	0.5	0.0	0.4
韓国	148	20.9	27.0	44.6	5.4	0.0	2.0	0.0
台湾	338	29.0	40.2	27.2	2.1	0.0	0.0	1.5
香港	47	74.5	23.4	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1
シンガポール	69	50.7	43.5	5.8	0.0	0.0	0.0	0.0
マレーシア	51	96.1	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
インドネシア	89	77.5	21.3	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0
タイ	258	64.7	28.3	5.8	1.2	0.0	0.0	0.0
フィリピン	185	46.5	53.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0
ベトナム	218	90.4	6.4	1.4	0.0	0.5	0.0	1.4
その他アジア	136	84.6	5.1	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0
その他方面	66	65.2	22.7	12.1	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	3,106	70.4	19.6	8.5	0.6	0.3	0.2	0.4

(2) 仙台空港への期待

1) 仙台空港利用企業の現状

- ❖ 回答企業 338 社のうち、海外出張者有とした企業が 149 社（回答企業のうち 44%）。うち、仙台空港を利用したことがある企業は 42 社（回答企業のうち 12%、海外出張者有と回答した企業のうち 28%）。
- ❖ 仙台空港を利用した出張者のいる企業が最も多く所在するのが宮城県で 33 社。うち、14 社は海外拠点有。
- ❖ 宮城県以外に所在する企業で仙台空港を利用した出張者がいるのは、すべて海外拠点を有していない企業。
- ❖ 仙台空港利用出張者を有する企業はサービス業（9 社）、その他非製造業（8 社）、運輸（7 社）の順に多い。

<図表（2）－1）－1 仙台空港利用企業の現状 回答企業に占める海外出張者有、仙台空港利用有>



<図表（2）－1）－2 仙台空港利用企業の現状 所在地別、海外拠点有無別>

所在地	総企業数	海外拠点有	海外拠点無
青森県	1	0	1
岩手県	3	0	3
宮城県	33	14	19
秋田県	1	0	1
山形県	2	0	2
福島県	2	0	2
総計	42	14	28

<図表（2）－1）－3 仙台空港利用企業の現状 業種別>

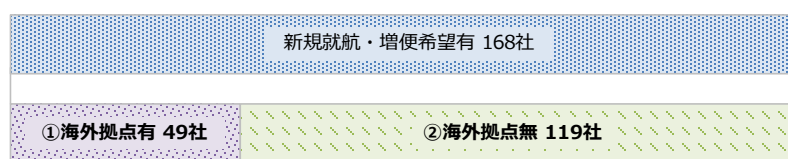
業種		企業数	業種		企業数
製造業	食品	0	非製造業	漁業	0
	繊維	0		鉱業	0
	紙・パルプ	0		建設	1
	出版・印刷	2		卸売・小売	1
	化学	0		不動産	0
	窯業・土石	0		運輸	7
	鉄鋼	0		電力・ガス	1
	非鉄金属	0		通信・情報	4
	金属製品	0		リース(含レンタル)	0
	一般機械	1		サービス	9
	電気機械	1		金融・保険	4
	精密機械	0		その他非製造業	8
	輸送用機械	0	非製造業計		35
	その他製造業	3			
製造業計		7	総計		42

2) 仙台空港からの就航（または増便）希望路線

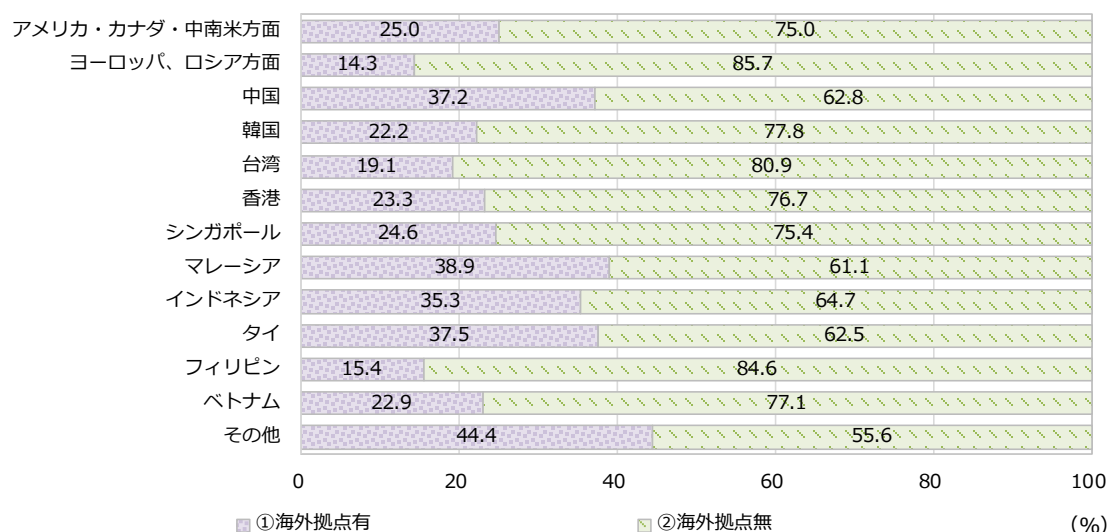
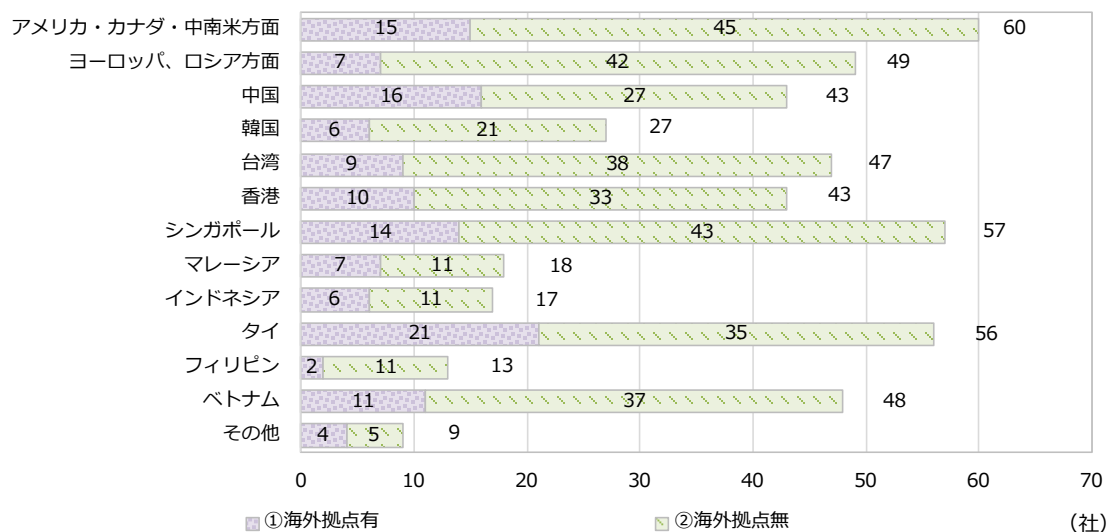
① 海外拠点の有無の別からみた希望路線

- ❖ 仙台空港からの就航（または増便）を希望する企業は 168 社（海外拠点有：49 社、無：119 社）であった。
- ❖ 海外拠点のある企業からの就航（または増便）希望路線を見ると（複数回答）、最も多いのはタイ（21 社）、次いで、中国（16 社）、アメリカ・カナダ・中南米方面（15 社）の順となった。
- ❖ 海外拠点のない企業からの就航（または増便）希望路線を見ると（複数回答）、最も多いのはアメリカ・カナダ・中南米方面（45 社）、次いで、シンガポール（43 社）、ヨーロッパ、ロシア方面（42 社）の順となった。

<図表（2）－2）－①－1 就航（または増便）希望企業の内訳>



<図表（2）－2）－①－2 就航（または増便）希望路線及び希望企業の内訳（複数回答）【再掲】>



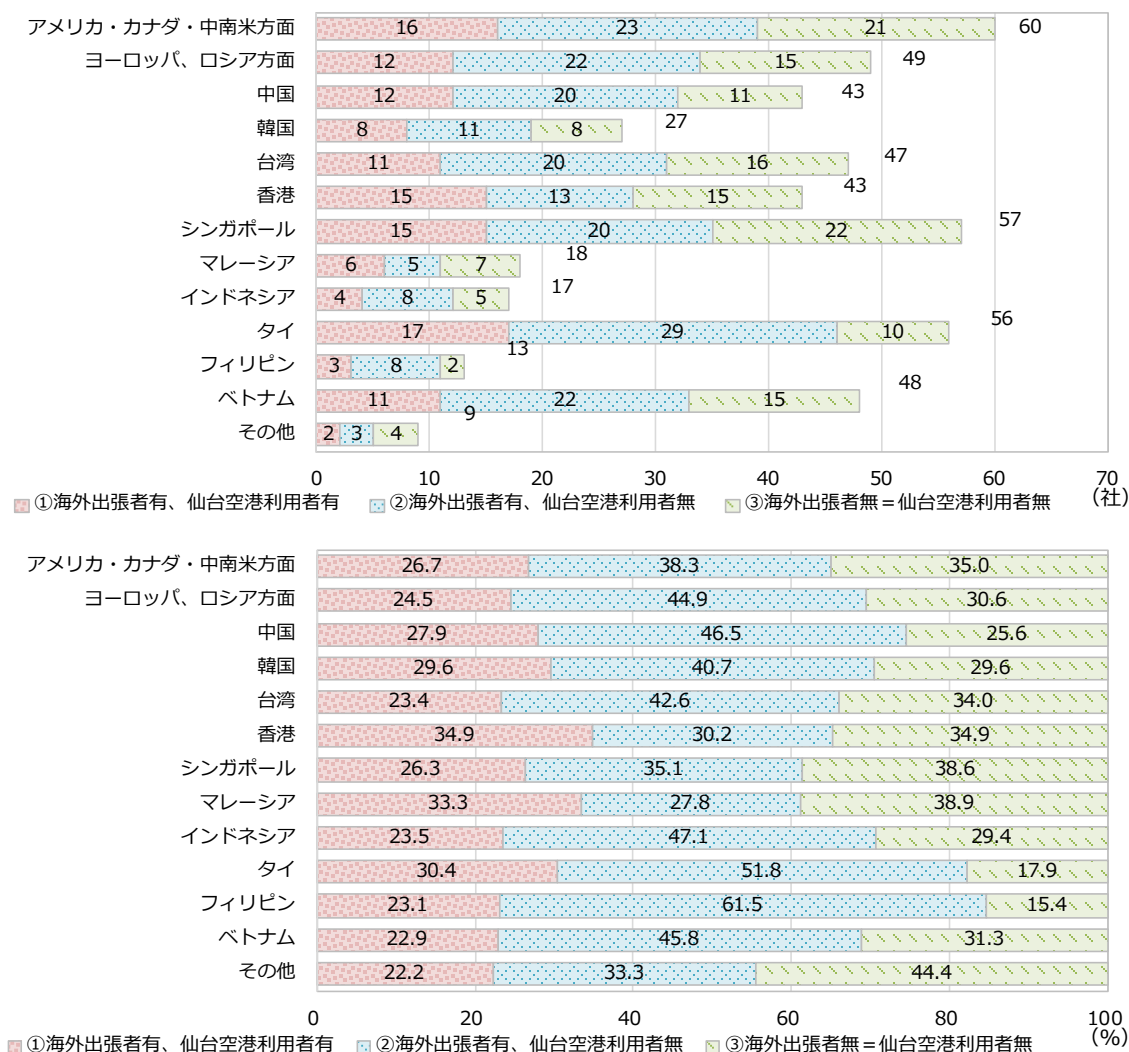
② 海外出張者の有無、仙台空港利用者の有無の別から見た希望路線

- ❖ 仙台空港を利用した海外出張者がいた企業（34 社）からの就航（増便）希望路線を見ると、最も多いのがタイ（17 社）、次いで、アメリカ・カナダ・中南米方面（16 社）、香港及びシンガポール（各々15 社）の順となった。また、仙台空港から直行便のある台湾（11 社）及び韓国（8 社）を希望する企業も多く、需要の底堅さが窺える。
- ❖ 仙台空港を利用しない海外出張者がいた企業（81 社）からの就航（または増便）希望路線を見ると、最も多いのがタイ（29 社）、次いで、アメリカ・カナダ・中南米方面（23 社）、ヨーロッパ、ロシア方面及びベトナム（各々22 社）が多い。

<図表（２）－２）－②－１ 就航（または増便）希望企業の内訳>



<図表（２）－２）－②－２ 就航（または増便）希望路線及び希望企業の内訳（複数回答）【再掲】>



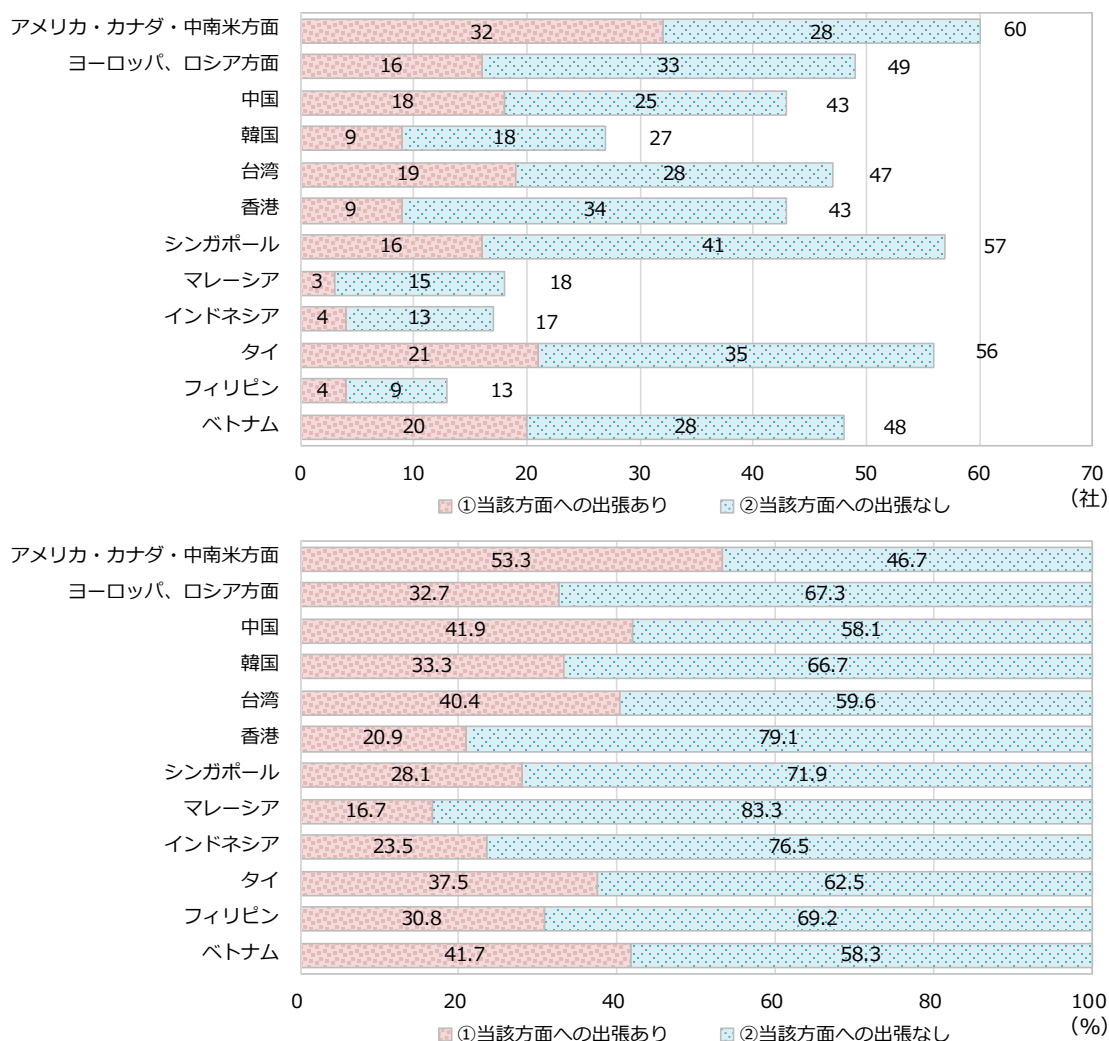
③ 希望路線への海外出張の有無別から見た希望路線

- ❖ 仙台空港からの就航（または増便）を希望した路線（以下、「当該方面」）への海外出張者の有無を見ると、当該方面へ海外出張者がいなかった企業からの当該方面への就航（増便）希望が全体の6割以上を占める。
- ❖ 希望企業数が多く、かつ、当該路線への海外出張者を有する企業からの希望がより多く寄せられた路線は、アメリカ・カナダ・中南米方面であった。

<図表（２）－２）－③－１ 就航（または増便）希望企業の内訳>

	企業数（社）			構成比（％）		
	①当該方面への出張あり	②当該方面への出張なし	総計	①当該方面への出張あり	②当該方面への出張なし	総計
アメリカ・カナダ・中南米方面	32	28	60	53.3	46.7	100.0
ヨーロッパ、ロシア方面	16	33	49	32.7	67.3	100.0
中国	18	25	43	41.9	58.1	100.0
韓国	9	18	27	33.3	66.7	100.0
台湾	19	28	47	40.4	59.6	100.0
香港	9	34	43	20.9	79.1	100.0
シンガポール	16	41	57	28.1	71.9	100.0
マレーシア	3	15	18	16.7	83.3	100.0
インドネシア	4	13	17	23.5	76.5	100.0
タイ	21	35	56	37.5	62.5	100.0
フィリピン	4	9	13	30.8	69.2	100.0
ベトナム	20	28	48	41.7	58.3	100.0
総計	171	307	478	35.8	64.2	100.0

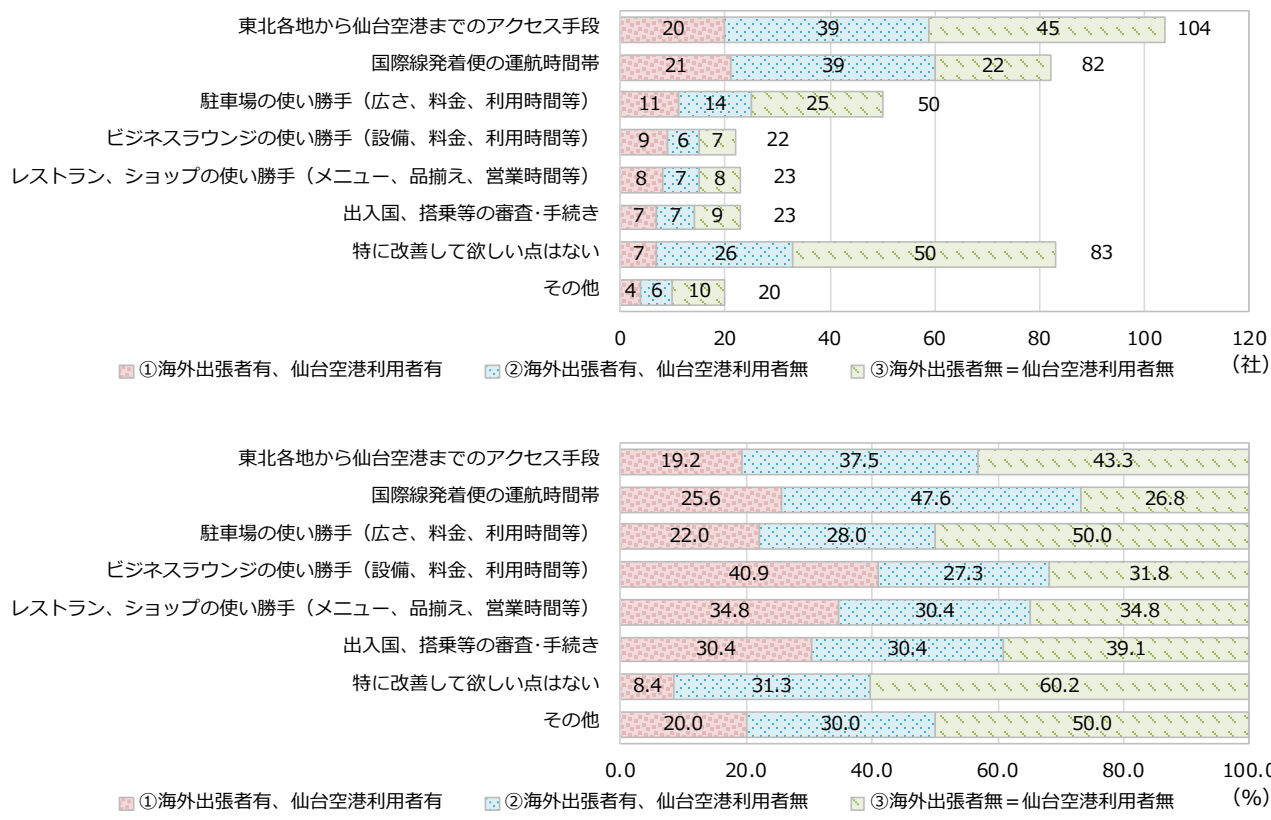
<図表（２）－２）－②－２ 就航（または増便）希望路線及び希望企業の内訳>



3) 仙台空港に望む改善点

- ❖ 仙台空港に望む改善点を見ると、「東北各地から仙台空港までのアクセス手段」の改善を望む企業が最も多く（104 社）、海外出張者の有無及び仙台空港利用者の有無に関わらず、多くの企業から改善を望む声が挙げられた。
次いで多いのが、「特に改善して欲しい点はない」（83 社）であり、うち 9 割以上が仙台空港を利用した海外出張者がいない企業であった。
「国際線発着便の運航時間帯」の改善を望む企業も多く（82 社）、うち 1 / 4 以上が仙台空港を利用した海外出張者を有する企業、半数近くが仙台空港を利用しない海外出張者を有する企業であった。
- ❖ 要望する企業数は少ないものの、「ビジネスラウンジやレストラン、ショップの使い勝手」への改善を望む声は、仙台空港を利用した海外出張者のいる企業からより多く上がった。
- ❖ 仙台空港に望む「その他」の改善点として、最もコメントが多かったのが仙台空港アクセス線に関するものであり、増便（快速を含む）やスーツケース等を一時的に格納する場所の確保等への要望が見られた。
また、仙台空港を利用しない海外出張者を有する企業からのコメントとして、既存路線の増便が挙げられた。

<図表（2）－3）－1 仙台空港に望む改善点及び改善を望む企業の内訳【再掲】>



<図表（2）－3）－2 仙台空港に望む「その他」の改善点及び「その他」の改善を望む企業の内訳【再掲】>

	アクセス鉄道	新規路線の開拓	既存路線の増便	その他	特になし	海外出張なし
① 海外出張者有、仙台空港利用者有	3	0	0	1	0	0
② 海外出張者有、仙台空港利用者無	0	1	3	0	1	0
③ 海外出張者無＝仙台空港利用者無	2	0	0	2	1	6
総数	5	1	3	3	2	6

(注) 本項目は、企業からの自由回答を上記の 6 要素に分解し、集計した結果であるため、総計の合計は必ずしも回答企業数とは一致しない。

4) 自由記入欄から見える仙台空港の可能性

- ❖ 仙台空港へのアクセス、仙台空港での滞在、仙台空港からのイグレス及びトランジット等、様々なシーンにおいて、航空会社や乗降客、乗降客以外の利用者にとっての利便性を向上させ得る可能性が窺える。
- ❖ 東北地域を代表する国際空港として、東北地域を挙げて利用される価値ある空港であることが期待される。

＜図表（２）－４）－１ 仙台空港へのご意見・ご要望など＞

	アクセス	運航時間帯	就航便	空港利便	乗継利便	運賃	L C C	その他
①海外出張者有、仙台空港利用者有	5	2	2	5	0	0	0	0
②海外出張者有、仙台空港利用者無	3	2	6	4	3	0	1	3
③海外出張者無＝仙台空港利用者無	2	1	2	2	0	1	1	2
総数	10	5	10	11	3	1	2	5

（注）本項目は、企業からの自由回答を上記の８要素に分解し、集計した結果であるため、総計の合計は必ずしも回答企業数とは一致しない。

以下に、ご意見・ご要望からの抜粋・要約を紹介する。

✧アクセスに関するご意見・ご要望（抜粋・要約）

（バス）

- ✓ 主要駅から（仙台市内）のリムジンバスがあれば便利。
- ✓ （仙台駅－空港間）直行バスなどの選択ができれば便利。

（鉄道）

- ✓ 空港と仙台中心部までの公共交通機関の料金が低い点、利便性の点（本数）の改善を希望。
- ✓ 仙台空港アクセス線の増便を期待。
- ✓ 隣県（山形県等）からの仙台空港アクセス線の新設、または既存列車への専用車両の増結など。
- ✓ 仙山線（快速列車）の仙台空港乗り入れ（仙山線と仙台空港アクセス線の乗り換え廃止）。

✧運航時間帯に関するご意見・ご要望（抜粋・要約）

- ✓ 夜・早朝の便の拡充、24 時間運用化。
- ✓ 出発日は用務に使えないため、仙台発の朝便を希望。

✧就航便に関するご意見・ご要望（抜粋・要約）

- ✓ 国際線は最低週 3 便から 4 便の運航を希望（1 年間）。
- ✓ 特定の方面（国）に就航便を集中させたハブ空港的な位置付けを希望。
- ✓ ハワイ直行便、アジア主要都市への直行便を希望。
- ✓ 就航エリア（特にアジア近郊）、発着便数の利便性の向上を期待。
- ✓ 羽田便の、最低 1 日 1 便（朝）就航を希望。

✧空港利便に関するご意見・ご要望（抜粋・要約）

- ✓ （空港利用者のみならず）東北地域全体として仙台空港を利用する意識づけ。
- ✓ 他空港を意識し、20～30 年先を見据えた空港整備（規模、質、人員配置、経済効果）。
- ✓ 出国手続後の飲食店の充実、ラウンジでの軽食提供。
- ✓ 出入国の CIQ の時間短縮。
- ✓ 朝の混雑解消のための搭乗口の増設。

✧その他

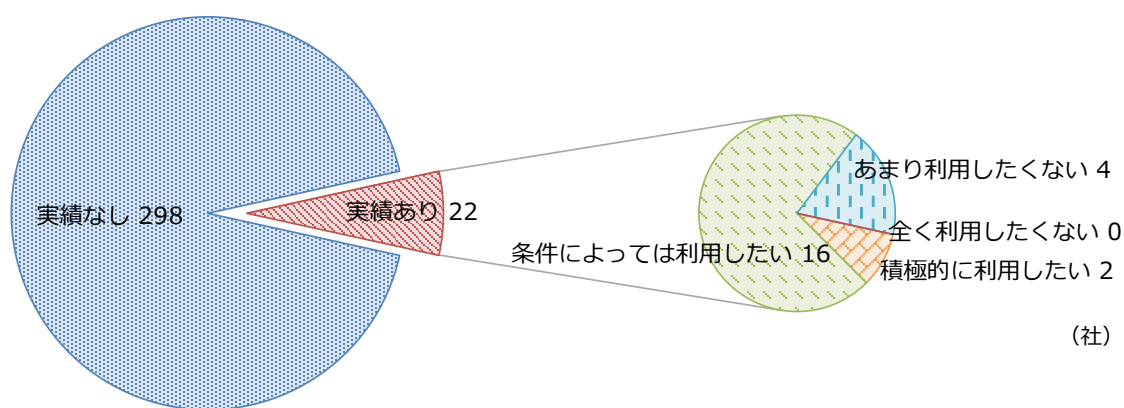
- ✓ 東北地域を代表する国際空港としての役割や、民営化によるメリットの打ち出しを求めたい。

（３）韓国仁川空港経由での海外出張の可能性

1）海外出張の際の仁川空港経由での第三国訪問の実績有無及び利用意向

- ❖ 過去に仙台空港から仁川空港を経由して第三国を訪問（以下、「当該ルートを利用」）した海外出張者がいたと回答した企業は 22 社であり、全体の 9 割を超える 298 社が当該ルートを利用した海外出張者はいなかったと回答した。
- ❖ 過去に当該ルートを利用した海外出張者を有する企業 22 社に、同ルートに対する今後の利用意向を尋ねた結果、「条件によっては利用したい」（16 社）と回答した企業が最も多く、次いで、「あまり利用したくない」（4 社）、「積極的に利用したい」（2 社）、の順に多かった。

＜図表（３）－１）－１ 当該ルートの利用実績の有無及び今後の利用意向【再掲】＞



2）仁川空港経由での第三国訪問実績のある企業による利用意向の詳細

- ❖ 当該ルートを「積極的に利用したい」（以下、「積極的利用層」）と回答した 2 社からは、乗り継ぎの利便性を評価する意見や、地域活性化につなげたいという意向が寄せられた。
- ❖ 「条件によっては利用したい」と回答した 16 社からは、「乗り継ぎ」「就航頻度」「金額」といった条件に関するコメントが多かった。乗り継ぎ利用による時間のロスや日程選択肢の縮小、コスト高に係る懸念を払拭する具体的なトランジット・プランの提示により、積極的利用層への転換を図ることも検討できる。
- ❖ 「あまり利用したくない」と回答した 4 社からは、特に「乗り継ぎ」に対する抵抗感が浮き彫りになった。積極的利用層等による乗り継ぎ利便を評価する事例を活用し、抵抗感払拭を試みることも一策であろう。

＜図表（３）－２）－１ 仁川空港経由での第三国訪問実績のある企業による利用意向の詳細【再掲】＞

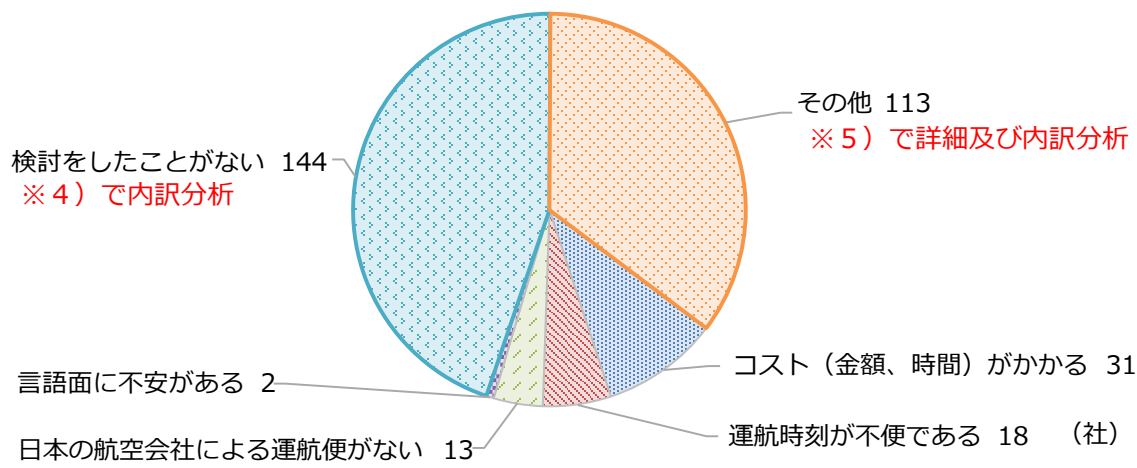
	乗り継ぎ	就航頻度	金額	空港	航空会社	地域活性化
積極的に利用したい	1	0	0	0	0	1
条件によっては利用したい	8	6	6	2	1	0
あまり利用したくない	4	0	0	0	1	0
全く利用したくない	0	0	0	0	0	0

（注）本項目は、企業からの自由回答を上記の 6 要素に分解し、集計した結果であるため、総計の合計は必ずしも回答企業数とは一致しない。

3) 仁川空港経由で第三国を訪問したことの無い企業の同ルートを利用しない理由

- ❖ 当該ルートを利用したことがない企業（298 社）に、同ルートを利用しない理由を尋ねた結果（複数回答）、「検討をしたことがない」との回答が最も多く（144 社）、次いで、「その他」（113 社）、「コスト（金額・時間）がかかる」の順に多かった。
- ❖ 「検討をしたことがない」と回答した企業に対しては、当該ルートの利用フィージビリティを分析した上で、検討時に比較対象となることが想定される他のルートよりも魅力的な、低コスト（金額・時間）で利便性の高いトランジット・プランを提示できることが望ましい。

<図表（3）- 3）- 1 仁川空港経由での第三国訪問実績の無い企業による利用意向の詳細（複数回答）【再掲】>



4) 仁川空港経由で第三国を訪問することを検討したことがない企業の内訳

- ❖ 当該ルートの利用を検討したことがない企業（144 社）を海外拠点の有無別で見ると、約 7 割に相当する 100 社が海外に拠点を有していないと回答している。
海外拠点を有していない企業等において、特発的に海外出張が発生するような場合であっても当該ルートが想起され、選択肢の一つとされるための訴求が必要であろう。
- ❖ 海外出張者の有無／仙台空港利用出張者の有無別に見ると、海外出張者無（74 社）・仙台空港利用出張者無（54 社）と回答した企業が全体の約 9 割（128 社）を占めた。
海外出張者無・仙台空港利用無と回答した企業の双方に対して、当該ルートを効果的に訴求する方策が必要であろう。

<図表（3）- 4）- 1 仁川空港経由で第三国を訪問することを検討したことがない企業の内訳【再掲】>

海外拠点	無	有	海外出張者	無	有（仙台空港利用無）	有（仙台空港利用有）
青森県	9	0	青森県	6	3	0
岩手県	9	3	岩手県	6	4	2
宮城県	57	38	宮城県	48	35	12
秋田県	5	1	秋田県	3	3	0
山形県	5	2	山形県	2	4	1
福島県	15	0	福島県	9	5	1
総計	100	44	総計	74	54	16

128

5) 仁川空港経由で第三国を訪問するルートを利用しない「その他」の理由

- ❖ 当該ルートを利用したことのない企業（298 社）のうち、同ルートを利用しない理由として「その他」を選択した企業（113 社）の自由回答を見ると、海外出張が（ほとんど）ないといった主旨の回答が 7 割弱を占めた。それ以外では、同行者（本社、お客様等）理由によるものや、海外に取引先／事業展開がない、代理店からの提案がない、といった回答も見られた。
- ❖ 海外出張が（ほとんど）なく、海外出張に不慣れな企業等において、特発的に海外出張が発生した場合であっても、当該ルートが想起され、選択肢の一つとされるための訴求が必要であろう。
また、海外出張における旅行手配を受託している代理店への訴求施策を検討する上で、航空会社と連携した広報活動等も視野に入れたい。

<図表（3）－5）－1 仁川空港経由で第三国を出張訪問するルートを利用しない「その他」の理由>

	海外出張が（ほとんど）ない	海外に取引先／事業展開がない	代理店からの提案がない	出張経路の決定権がない	同行者（本社、お客様等）理由	その他
青森県	4	0	0	0	0	2
岩手県	9	0	1	0	0	2
宮城県	54	2	1	2	4	10
秋田県	1	0	0	0	0	3
山形県	3	2	1	0	1	0
福島県	5	0	0	0	1	3
総計	76	4	3	2	6	20

<抜粋>

- ・ 乗替時の運行会社が変わることは手続きや言語的な不自由がある。（宮城県）
- ・ 時間がかかる点と、そのルートの航路で利用する航空会社が好きではない。（宮城県）
- ・ 羽田発着便数が増え、便利になった。（秋田県）
- ・ 秋田から仙台までの時間がかかりすぎるため（交通手段が限られる）、仙台空港利用のメリットがない。（秋田県）
- ・ 青森－仁川の定期航路がある。（青森県）
- ・ 青森空港発着便を利用する。（青森県）
- ・ 韓国の場合、金浦空港への直行便しか利用しない。（福島県）
- ・ 拠点（いわき市）からは、東京方面の方が交通面で便利である。（福島県）

（注）本項目は、企業からの自由回答を上記の 6 要素に分解し、集計した結果であるため、総計の合計は必ずしも回答企業数とは一致しない。

6) 具体的なコメントから見える仁川空港経由での第三国訪問の可能性

- ❖ 実際に当該ルートを利用した海外出張経験者を有する企業（22 社）からは、金額、機材や設備の充実等を評価する声がある。
- ❖ 訪問先によっては、当該ルートが成田・羽田空港発ルートに比肩する可能性が示唆される意見があり、当該ルートの周知と、具体的で比較検討可能なトランジット・プランを提示する意義が窺える。
- ❖ 仁川空港でのトランジットの利便性を高めるため、仙台空港発便の仁川空港着陸 GATE の場所等に関し有利な交渉を進めるためにも、当該ルートの利用者の増加に努めたい。

＜仁川空港経由での第三国訪問ルート进行评估コメント（抜粋）＞

- ✓ 「米国や欧州行きであれば、もともと移動時間が長いので、乗り継ぎ時間も苦にならない。ハブラウンジ（＜参考：ハブラウンジ＝SKY HUB LOUNGE（スカイハブラウンジ）＞参照）を、1,000 円程度で利用できるのが便利。アジアナ便に値頃感がある。機材がよく（エアバス A380 など）、座席もゆったりで、モニターなどの設備も新しく、充実している。」（当該ルートの積極的利用層の企業、宮城県）

＜参考：ハブラウンジ＝SKY HUB LOUNGE（スカイハブラウンジ）＞

旅客ターミナル4階にある有料のラウンジ^{（注）}。空調の効いた室内では、ビュッフェサービスの他、インターネットやWi-Fi、新聞・雑誌・TV等が無料で利用可能。

（注）通常利用料金は35,000ウォン。ただし、例えば、アジアナ航空を利用して仙台空港から仁川空港経由で第三国を訪問する場合は、10,000ウォンにて利用が可能となるサービスがある（2017.8.1現在）等、利用する航空会社や旅行代理店等により料金設定や利用条件等が異なる。



（出典）アジアナ航空「仙台発 世界の都市へ 2017年冬期 乗り継ぎガイド」

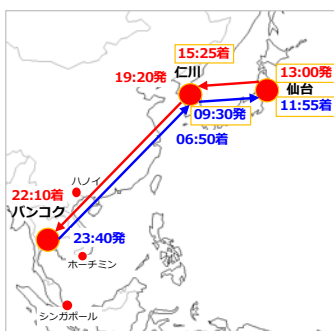
- ✓ 「本調査の依頼をいただいたことを契機に、仙台－仁川－ホーチミンと、成田・羽田－ホーチミンのルートと比較してみたが、仙台発着の場合でも、東京発着と比較して、特に遜色はないものと思われることから、今後は利用を検討したい。」（仙台空港を利用していない海外出張者の実績のある企業、岩手県）

＜参考：仁川空港経由でのトランジット・プランの例＞

以下に、仙台空港発仁川空港経由で訪問可能な東南アジアへのトランジット・プランを例示する。

ほぼ毎日就航便である、仙台空港 13:00 発⇒仁川空港 15:25 着便、仁川空港 09:30 発⇒仙台空港 11:55 着便を利用することを前提条件とした以下のトランジット・プランにおいては、全て仁川空港での同日乗り継ぎが可能となっている。また、仁川空港での滞在時間は約3～4時間程度であり、前述のSKY HUB LOUNGE（スカイハブラウンジ）の活用等によっては、ビジネス・アウトバウンドにおける貴重な時間を有効に使うことができる。

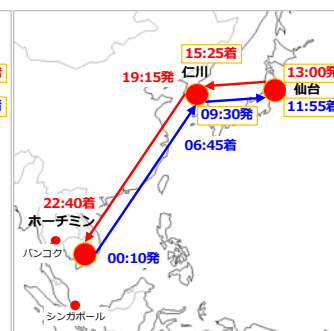
＜バンコク（タイ）＞



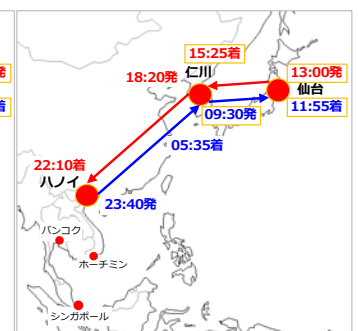
＜シンガポール＞



＜ホーチミン（ベトナム）＞



＜ハノイ（ベトナム）＞



（出典）アジアナ航空「仙台発 世界の都市へ 2017年冬期 乗り継ぎガイド」

IV. 仙台空港が東北地域企業から選ばれるための課題

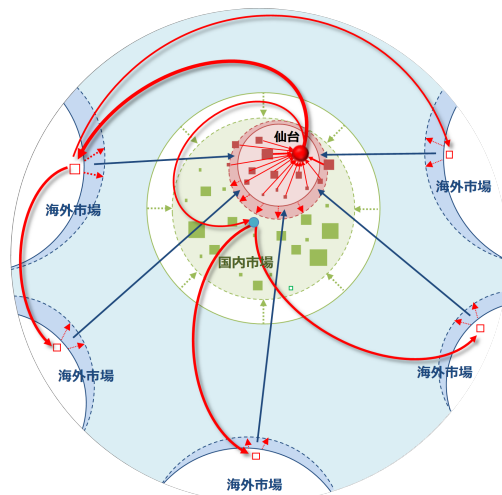
仙台空港が、国管理空港としてわが国初の完全民営化空港としてスタートしてから1年。

仙台空港は、「プライマリー・グローバル・ゲートウェイ」を将来イメージとして、「東北を発着する旅客に一番に選ばれる東北で最も重要な航空拠点となる」ことを目標に掲げ、様々な取り組みを進めている。

そのような状況の中、この度、東北地域初の試みとなる本調査により、①海外出張の実態（企業の海外出張者数、訪問先、出発空港）、②仙台空港への期待、③韓国仁川空港経由での海外出張の可能性、に関する企業からの声を把握することができた。その結果を見ると、企業の仙台空港に寄せる期待は大きいものの、仙台空港が東北地域の企業に充分活用されているとは言い難い実態が明らかとなった。

以上のことから、まずは、東北地域の企業の中に仙台空港の活用のメリットを充分周知するとともに、「**仙台空港を『東北地域の財産』と位置づけ、東北地域全体で利活用していく**」といった気運を醸成していくことが、何よりも重要であるとの考えに達した。その結果として、仙台空港を活用する企業が増え、仙台空港に対する東北地域企業の海外出張需要の拡大を通じ、更なる国際線定期路線の充実へとつながることが期待される。

以下に、そのために必要とされるであろう5つの処方箋を示す。



（1）仙台空港へのアクセス向上

- ※ 仙台空港アクセス線による仙台空港へのアクセス向上のため、発着頻度及び時刻の改善を図る。
- ※ 仙台空港～仙台市内（主要拠点）間のリムジンバスの開設により、二次交通の補完・強化に貢献する。
- ※ 仙台空港アクセス線利用時の快適性向上のため、手荷物一時格納場所確保等を含む車両改善に取り組む。

＜（1）の背景＞

- ✓ 「東北各地から仙台空港までのアクセス手段」の改善を望む企業が最も多く（104 社）、海外出張者の有無、仙台空港利用者の有無に関わらず、多くの企業から改善を望む声が挙げられた。

⇒仙台空港を利用した海外出張者を有する企業からもアクセス手段の改善を望む声があり、早急な対応が必要な事項であろう。

- ✓ 仙台空港に望む「その他」の改善点として、最もコメントが多かったのがアクセス鉄道に関するものであった。
- ✓ 仙台空港へのご意見・ご要望として、以下のような主旨の自由記入が見られた。

（鉄道）・空港と仙台中心部までの公共交通機関の料金が高い点、利便性の点（本数）の改善を希望。

- ・仙台空港アクセス線の増便を期待。
- ・隣県（山形県等）からの仙台空港アクセス線の新設、または既存列車への専用車両の増結を希望。
- ・仙山線（快速列車）の仙台空港乗り入れ（仙山線と仙台空港アクセス線の乗り換え廃止）を希望。
- ・仙台空港アクセス線の車両内に、スーツケース等を一時的に格納する場所の確保を希望。

（バス）・主要駅から（仙台市内）のリムジンバスがあれば便利。

- ・（仙台駅－空港間）直行バスなどの選択ができれば便利。

⇒既存の仙台空港アクセス線の増便等による対応、仙台空港アクセス鉄道以外のアクセス手段（バス等）の確保の検討が必要であろう。

（２）運用時間の延長を軸とした利便性向上

- ※ 夜間飛行制限の緩和により仙台空港深夜発→現地早朝着便を就航し、海外出張者の利便性向上に寄与する。
- ※ 翌朝まで駐機する仙台空港深夜着便機を有効活用し、仙台空港早朝発便就航による効率的な増便を図る。
- ※ 航空会社にとっての仙台空港の利便を高めることにより、LCC の更なる誘致や、新規就航及び増便を目指す。

<（２）の背景>

- ✓ 本調査において、深夜・早朝便の拡充や 24 時間化を求める声が複数見られている。
⇒仙台空港に対して深夜・早朝便の拡充や 24 時間化を望む意見が、東北地域の企業から挙げられている。
- ✓ 新千歳空港においては、「深夜・早朝時間帯を活用した実証運航」が実施され、新千歳空港の深夜・早朝時間帯の離発着便が現在以上に増えた時の利用意向を聞いたところ、利用に肯定的な意見が 9 割を超えている。
(出典) 北海道「新千歳空港の深夜・早朝時間帯を活用した実証運航について」(平成 25 年 6 月 5 日)
- ✓ 成田空港においては、日本経済の再生に向けた成長戦略の早期実施の貢献に必要な機能強化策の一つとして、「夜間飛行制限緩和」の必要性、考え方及び効果を検証し、実現を目指している。
(出典) 成田空港「成田空港の明日を、いっしょに 夜間飛行制限の緩和」(<https://www.narita-kinokuyouka.jp/mitigation.html>)
- ✓ その他複数の空港において深夜・早朝便の拡充や 24 時間化の実現に向けた取り組みが見られている。
⇒運用時間の延長に伴う施設の営業時間延長、2 次アクセス及び宿泊施設の拡充、地域住民の合意形成などの課題が多いにも関わらず、就航本数の増加、多様な路線設定により旅客需要を取り込むことでの利用者増への期待がある。

（３）仙台空港利用企業への優遇策

- ※ 「仙台空港サポータークラブ」の早期立ち上げにより、「仙台空港ファン」の育成土壌を作る。
- ※ 仙台空港に対する理解と共感を生み、仙台空港を利用する意義を広く共有するインセンティブを検討する。
- ※ 「仙台空港ファン」をはじめとした企業等からの声を聞く機会を獲得し、価値ある仙台空港の実現に活かす。

<（３）の背景>

- ✓ 国内市場は、人口減少及び少子高齢化の進展に伴い、縮小が見込まれるため、地域創生はもとより、新たな市場を海外に求める必要がある。特に東北地域は、全国に比して人口減少及び少子高齢化の進展が著しいため、地域創生に加えて、新しい市場を海外に拡大するための挑戦が求められることになる予測される。
- ✓ ただし、東北地域は、大都市圏に比して大企業の所在が少なく、中堅・中小企業が多い。中堅・中小企業が海外への市場拡大のため、例えば海外視察等のために海外出張を試みる場合、いくつもの壁を超えなければならないことが予測される。
- ✓ ここにおいて仙台空港は、民営化された地域密着型の国際空港として、東北地域の企業による海外進出に係る参入障壁を下げる役割を担う意義がある。
- ✓ 仙台空港を利用したビジネス・アウトバウンド需要の底固めにより、観光閑散期、大規模災害やパンデミック流入防止による受入制限、国際情勢による出入国制限等による需要低下の影響を、緩和できる可能性もある。
⇒まずは、「仙台空港ファン」を育成し、仙台空港に対する理解と共感を生む必要があろう。
⇒仙台空港を利用する意義が広く共有されるため、インセンティブを検討することも重要となろう。

（４）トランジットによる成田空港利用の促進

- ※ 仙台空港を起点とし、成田空港を出発空港としたトランジット・プランの利便性を提示する。
- ※ 特に、成田空港を利用した海外出張経験者及び企業に対し、トランジット・プランの利用を促進する。
- ※ 周知のための方策として、成田空港とタイアップした広報や、旅行代理店へのインセンティブ等を検討する。

<（４）の背景>

- ✓ 海外出張の際の出発空港を見ると、成田空港 2,186 人（70.4%）が最も多く、次いで、羽田空港 610 人（19.6%）、仙台空港 263 人（8.5%）、青森空港 18 人（0.6%）の順に多い。
- ✓ 首都圏空港利用者の 2/3 は鉄道を利用して仙台から海外に出国していると推計される。

（出典）宮城県「仙台空港旅客実態調査・成長シナリオ策定事業」報告書（平成 27 年 7 月）

⇒仙台空港を出発空港とし、成田空港で乗り継ぎをして海外に出張する経路を提案する余地がある。

（５）仁川空港を経由したトランジットの周知

- ※ 特に新規就航の希望が多い路線に関し、仁川空港を経由した具体的なトランジット・プランを提示する。
- ※ 仁川空港を経由したトランジット・プランの利用によるコスト（金額・時間）・メリットを訴求する。
- ※ 周知のための方策として、旅行代理店への積極的な情報提供、航空会社と連携した広報等も視野に入れる。

<（５）の背景>

- ✓ 過去に仙台空港から仁川空港を経由して第三国を訪問（以下、「当該ルートを利用」）した「海外出張者の実績なし」と回答した企業（298 社）が、全体の 9 割以上を占めた。

⇒仁川空港が、第三国訪問のための乗り継ぎ空港としては認識されていない可能性が示唆される。

- ✓ 当該ルートを「積極的に利用したい」（以下、「積極的利用層」）と回答した企業からは、乗り継ぎの利便性を評価する意見や、地域活性化につなげたいという意向が寄せられた。
- ✓ 当該ルートを「条件によっては利用したい」と回答した企業からは、「乗り継ぎ」「就航頻度」「金額」といった条件に関するコメントが多く、「あまり利用したくない」と回答した企業からは、特に「乗り継ぎ」に対する抵抗感が浮き彫りになった。

⇒仁川空港を経由した乗り継ぎ利用による時間のロスや日程選択肢の縮小、コスト高に係る懸念を払拭する必要がある。

- ✓ 当該ルートの利用を検討したことがない企業のうち、約 7 割（100 社）が海外に拠点を有していないと回答した。
- ✓ 当該ルートを利用したことのない企業のうち、同ルートを利用しない理由として「その他」を選択した企業の 7 割弱は、海外出張が（ほとんど）ないと回答した。代理店からの提案がない等の回答もみられた。

⇒特発的に海外出張が発生するような場合にも当該ルートが想起され、選択肢の一つとされるための訴求が必要である。

以上が、仙台空港の今後の需要拡大に向けた取り組みの一助となると共に、仙台空港が真の意味で、東北の「プライマリー・グローバル・ゲートウェイ」としての地位を確立し、東北地域のプロモーション・ハブとなる地域密着型の国際空港として、東北地域創生の一翼を担っていくことを期待する。



V. 調査票

2017 年度東北地域企業アウトバウンド旅客調査票

【企業情報】

貴社・貴工場・貴支店・貴営業所に関する以下の項目について、ご記入ください。なお、貴社における本調査の調査対象部署は、東北6県（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）に所在する本社・工場・支店・営業所等としてください（工場・支店・営業所の方は、ご自身が所属する工場・支店・営業所の計数のみご回答いただければ結構です）。

貴社・貴工場・ 貴支店・貴営業所名				
上記所在地	〒 - 市 郡 県			
業種	※当てはまる番号に○印を付けてください。			
	製造業	1. 食品 2. 繊維 3. 紙・パルプ 4. 出版・印刷 5. 化学 6. 窯業・土石 7. 鉄鋼 8. 非鉄金属 9. 金属製品 10. 一般機械 11. 電気機械 12. 精密機械 13. 輸送用機械 14. その他製造業		
	非製造業	1. 漁業 2. 鉱業 3. 建設 4. 卸売・小売 5. 不動産 6. 運輸 7. 電力・ガス 8. 通信・情報 9. リース(含レンタル) 10. サービス 11. 金融・保険 12. その他非製造業		
従業員数 (正社員ベース)	本調査の対象 部署の人数	人	海外拠点数 (全社ベース)	拠点
ご担当者連絡先	ご所属		お名前	
	TEL		Mobile	
	FAX		E-mail	

I. 海外出張の実態についてお伺いします。

I-1 貴社・貴工場・貴支店・貴営業所における1年間※の「海外出張者総数」(延べ人数)をご回答ください。なお、貴社における本調査の調査対象部署は、東北6県(青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)に所在する本社・工場・支店・営業所等としてください(工場・支店・営業所の方は、ご自身が所属する工場・支店・営業所の計数のみご回答いただければ結構です)。海外出張者がゼロの場合には、「0」人とご回答ください。また、正確な「海外出張者総数」(延べ人数)の把握が困難な場合は、概数でも結構です。

※調査対象期間：平成28年度(平成28年4月から平成29年3月)

ただし、年度での回答が困難な場合は、暦年(平成28年1月から平成28年12月)でも構いません。

海外出張者総数(延べ人数)

 人

I-2 前問でご回答いただいた「海外出張者総数」(延べ人数)の内訳について、下表の「国・地域別出張者数①」及び「国際線出発空港／利用人数内訳②」別にご回答ください。

(記入上の注意)

- ① 「海外出張者総数」(延べ人数)(I-1)と「国・地域別出張者数①」の合計③が一致するようにご回答ください。
- ② 各「国・地域別訪問先」の「国・地域別出張者数①」と「国際線出発空港／利用人数内訳②」の各空港の合計値が一致するようにご回答ください。
- ③ 「国・地域別訪問先」が1度の出張で複数方面に渡る旅程の場合には、主要な訪問先1方面のみでご回答ください。
- ④ 国内移動において飛行機を利用した場合(例：青森空港～羽田空港、仙台空港～成田空港)には、それぞれ国際線の出発空港である「羽田発」、「成田発」とご回答ください。
- ⑤ 国際線にて出国後、最終目的国以外で乗換えをした場合(例：青森空港～仁川空港～ハノイ空港、仙台空港～仁川空港～ハノイ空港)には、それぞれ日本の国際線出国空港である「青森発」、「仙台発」とご回答ください。
- ⑥ 「海外出張者総数」(延べ人数)(I-1)がゼロの場合は、下表にお答えいただく必要はありません。

国・地域別 訪問先	国・地域別 出張者数 ①	国際線出発空港／利用人数内訳②						
		成田発	羽田発	関西発	中部発	仙台発	青森発	その他発 空港名 ()
アメリカ・カナダ・中南米方面								
ヨーロッパ、ロシア方面								
アジア方面	中国							
	韓国							
	台湾							
	香港							
	シンガポール							
	マレーシア							
	インドネシア							
	タイ							
	フィリピン							
	ベトナム							
	その他アジア							
その他方面								
合計③								

<国・地域別区分>

- ・アメリカ：アメリカ合衆国(ハワイ州、グアム・サイパン含む)
- ・中南米：北米大陸のうちメキシコ以南の諸国、及び、南米大陸の諸国
- ・ヨーロッパ：ヨーロッパ大陸の諸国(トルコ含む)
- ・西南アジア(インド、スリランカ、バングラデシュ、ネパール、ブータン、パキスタン、モルジブ)
- ・中近東(アフガニスタン以西の中近東諸国)
- ・その他：オセアニア、アフリカ大陸諸国

Ⅱ． 仙台空港から直行便のある韓国仁川空港経由での海外出張の可能性についてお伺いします。

Ⅱ－１ 貴社・貴工場・貴支店・貴営業所における海外出張の際、過去に仙台空港から仁川空港を経由して第三国を訪問したことはありますか。以下の選択肢から、番号でご回答ください。

1. ある

└─→Ⅱ－２へ

2. ない

└─→Ⅱ－３へ

Ⅱ－２【Ⅱ－１で「1. ある」とご回答いただいた方のみ回答】

海外出張の際、今後とも、仙台空港から仁川空港を経由して第三国を訪問するルートを利用したいですか。ご利用意向に最も近い番号を1つだけ○で囲んでください。また、その理由について、お答えください。

- 1. 積極的に利用したい _____
- 2. 条件によっては利用したい _____
- 3. あまり利用したくない _____
- 4. 全く利用したくない _____

理由：

Ⅱ－３【Ⅱ－１で「2. ない」とご回答いただいた方のみ回答】

海外出張の際、仙台空港から仁川空港を経由して第三国を訪問するルートを利用しない理由は何ですか。当てはまる番号をすべて○で囲んでください。また、その他については、その理由について、お答えください。

- 1. 日本の航空会社による運航便がない _____
- 2. コスト（金額、時間）がかかる _____
- 3. 運航時刻が不便である _____
- 4. 言語面に不安がある _____
- 5. 検討をしたことがない _____
- 6. その他 _____

理由：

Ⅲ. 仙台空港への期待についてお伺いします。

Ⅲ－１ 今後、海外出張先として仙台空港から就航（または増便）して欲しい国際線路線がありましたら、当てはまる番号をすべて○で囲んでください。また、具体的な都市名もありましたら、併せて括弧内にご記入ください。

- | | | |
|------------------|-------|---|
| １．アメリカ・カナダ・中南米方面 | （都市名： | ） |
| ２．ヨーロッパ・ロシア方面 | （都市名： | ） |
| ３．中国 | （都市名： | ） |
| ４．韓国 | （都市名： | ） |
| ５．台湾 | （都市名： | ） |
| ６．香港 | （都市名： | ） |
| ７．シンガポール | （都市名： | ） |
| ８．マレーシア | （都市名： | ） |
| ９．インドネシア | （都市名： | ） |
| １０．タイ | （都市名： | ） |
| １１．フィリピン | （都市名： | ） |
| １２．ベトナム | （都市名： | ） |
| １３．その他方面 | （都市名： | ） |

Ⅲ－２ 海外出張で仙台空港を利用する上でどのような点を改善して欲しいとお考えですか。当てはまる番号をすべて○で囲んでください。

- | | |
|-----------------------------------|---|
| １．東北各地から仙台空港までのアクセス手段 | |
| ２．国際線発着便の運航時間帯 | |
| ３．駐車場の使い勝手（広さ、料金、利用時間等） | |
| ４．ビジネスラウンジの使い勝手（設備、料金、利用時間等） | |
| ５．レストラン、ショップの使い勝手（メニュー、品揃え、営業時間等） | |
| ６．出入国、搭乗等の審査・手続き | |
| ７．特に改善して欲しい点はない | |
| ８．その他（具体的に： | ） |

Ⅲ－３ その他仙台空港へのご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。



©Development Bank of Japan Inc. 2017

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願い致します。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要です。当行までご連絡下さい。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：日本政策投資銀行』と明記して下さい。

（お問い合わせ先）

（株）日本政策投資銀行 東北支店 東北復興・成長サポート室 電話022-227-8182

